

課題研究ハンドブック Chapter 1（試作版）

～リサーチ、プレゼン、レポートの枠組み～

このサポートシリーズでは、高校生の皆さんに、課題研究ではどのようにリサーチを進めれば良いのか？ また、調べた結果をプレゼンやレポートにどのようにまとめたら良いのか？ 『基礎演習ハンドブック』（関西学院大学総合政策学部、2012）等を参考に、具体的に説明しましょう。

とは言え、高校生の方々にはリサーチやレポートについて、なかなかイメージがわきにくいかもしれません。また、ひょっとして「こと細かに調べなくても、あるいは小難しく書かなくても、言いたいことは伝わる」等とお考えになるかもしれません。しかし、リサーチやレポートでは好き勝手に調べたり、書いたりして良いわけはありません。それでは、まず、リサーチの心構えから始めます。

リサーチとは何か？ その心構えとしての3つの条件

リサーチやレポートの心構えとして、以下の3条件をあげましょう。

（1）**学術的（そして社会的）貢献**：リサーチやレポートのテーマは「ほかの人と違うこと＝自分のオリジナル」が望ましいとされています。そして、それが結果的に**新しい情報**を産み出し、学術にも社会にも貢献になれば素晴らしいことです。もちろん、いつも成功するとは限りません。失敗するかもしれません。しかし、ノーベル賞等でしばしば指摘されていますが、**失敗から思わぬ成功が生まれることも珍しくないのです**。そもそも、「試してみなければ」、進歩はありません。ですから**失敗をおそれず、オリジナルで、思わぬ貢献**に結びつくかもしれない**新しいテーマ**にチャレンジして下さい。

（2）**客観性**の保証：リサーチやレポートでは、事実を積み重ねることで議論を展開しなくてはなりません。自分の主観だけで書きまくってもいけないのです。それでは、どうすれば“客観的”と評価されるのでしょうか？ 大きく分けて、以下の4つの方法があります。

- ①**数値**（数字）を用いる。もちろん、数字は作り方や見せ方で聞き手や読者に与える印象が異なりますが、それでも数字が持つ客観性は有効です。
- ②先行研究を**引用**する。人間は万能ではありません。自分の知らない領域のことは素直に、すでに研究をおこなった専門家の意見（**文献・資料**）を参考にするべきです。
- ③**歴史的事実等と照合**する。なお、“歴史的事実”は自分の解釈次第でどのように使ってもかまいませんが、“歴史解釈”は引用として扱わなくてはならない点に注意しましょう。
- ④アンケートや取材（インタビュー／ヒアリング）、フィールドワークで**自らリサーチ**する。

このような“客観性”とは、19世紀にイギリス王立協会で「科学とは何か？」を議論する上で中心となった概念です。すなわち、**客観性の維持＝科学**なのです。

（3）**公共性**の保証：レポートを書く際、不特定多数の人が読むかもしれないことを自覚して下さい。日記やエッセイのように主観的感想ばかりを述べてはいけません。できるだけテーマに対する回答に焦点をあてた文章になるように工夫して下さい。テーマについても、より汎用性・一般性が高い課題が望まれます。ですから、「関西地区の大学生の英語力」よりも、「日本人の英語力」の方が公共性の高いテーマになります。一方で、無断で他者の文章を引用すれば盗作になります。

■課題：それでは、ここで課題です。以下の話題から、皆さんはどんなテーマを思いつきますか？

- (1) アジア各地で“近東”、“中東”、“極東”等と呼ばれている地域があります。では、これらの呼び名は「何処からの目線」なのでしょう？
- (2) インドネシア共和国の公用語であるインドネシア語は、どの民族の言語でしょうか？
- (3) “新大陸(アメリカ大陸)”の発見者は誰か？ 選択肢から一つ選んで下さい(表記は原音主義)。
①コロンボ ②ヴェスプッチ ③マガリャンイス ④レイフ ⑤ガマ ⑥その他()

■解説は4頁

リサーチ・レポートの種類とレベル

次に、リサーチやレポートはどんな種類に分かれるのか、研究の進展にそって説明しましょう。なお、この順番に研究としてのレベルが上がっていくものと思って下さい。

レベル1 (論点整理型)：これまでのリサーチの流れを整理しながら、現在の議論をグループ分けします。この作業は発表準備等に必須で、研究の第一歩と言えます。

レベル2 (サーベイ型)：議論を整理して「何が未解決の問題なのか？」を探します(サーベイ)。実はこれだけでなかなか大変です。未解決な問題を3、4つ提示するだけで十分な学術的貢献です。

レベル3 (分析型)：サーベイで浮かび上がった対立する議論の是非を、何らかの基準で比較検討します。自然科学では仮説検証型の論文にあたりますが、経済学等でも証明に統計手法が用いられます。政治学や国際関係論では、歴史的事実に照合して議論することが多いようです。

レベル4 (政策提言型)：分析した結果を具体的な提案に落とし込みます。単純に「～すべきである」だけではだめです。実行体制や実施にあたって予想される問題点等も含め、新提案を目指します。

レベル1からリサーチを進め、レベル3か4にたどり着くべきですが、時間がなければ、レベル2で終わっても仕方ありません。また、レベル1は、そうした道筋の足がかりと考えて下さい。

リサーチ・プレゼンテーション・レポートの構造・形式

さて、リサーチに基づいたレポート/プレゼンテーションは基本的に3つの部分からなります。以下に概略を説明しますが、これは学術論文の形式として標準的なIMRAD(Introduction, Methods, Results and Discussion)の簡易版と思って下さい。

- (1) 序・はじめに(Introduction)：このパートは「テーマ」の説明です。何より肝心なのは、貴方がそのテーマに感じた魅力や重要性を他者に伝えることです。具体的には、
- ①テーマに関する社会的位置づけ：未解決の問題を提示し、研究の必要性を説明します。
 - ②目的：このレポート(リサーチ)で何を明らかにするのか、明記します。
 - ③仮説：そのテーマについて自分なりの仮説を提示します。
- (2) 調査結果(Results)：リサーチで調べた結果を記述します。ここでは客観性を心がけて下さい。文献は必ず引用を、データを利用した場合は出典を明記するように注意して下さい。IMRAD型のレポートでは、Resultsの前に方法や対象を説明するMethodsやSubjects等が入ります。
- (3) 考察・議論(Discussion)：調査結果を自らの視点で解釈、考察、そして提案します。プレゼンテーションでもレポートでも、このパートこそ一番大切です。グローバル・スタンダードでは、考察・議論がオリジナルで、新たな謎・課題が解き明かされ、さらに新しい仮説を打ち出すリサーチほど、立派な研究と評価されます。ある研究者はこう指摘しています。「重要な発見をしよう

とするよりも、自分の発見を重要なものにすることに、努力すべきである」(白上謙一、1972)。
自らが発見した事実に、自分も他の人も想像さえしていなかった価値があることに気付き、「この発見はこんなに重要なんだ」とアピールする。これがリサーチの醍醐味です。

- (4) **引用文献・資料** (書籍名、著者名、出版年、出版社を明記) : レポートの文末には、参考にした文献に関する引用文献・資料をまとめた表をつけねばなりません。

リサーチをおこない、その結果をプレゼン／レポートにまとめるには リサーチ・レポートの構造

そろそろリサーチの構造について話を進めましょう。まず、リサーチの全体像を頭に入れて下さい。もうお気づきでしょうが、リサーチの構造はさきほど紹介したレポート・プレゼンテーションと基本的に同じです。つまり、リサーチの方法を覚えれば、レポートの書き方も体得したことになります。自然科学でも社会科学でも、どんな複雑なリサーチもつまるところ、以下の3つの構造に分かれます。

- (1) 研究テーマは何か？ どうしてそのテーマを取り上げるのか？ = 「**序**」として、「問題発見」や、「仮説の提唱」をしなければなりません。そのため、あなたの**主観**が色濃く出るはずですよ。
(2) 調査結果はどうだったか？ = 「**結果**」としてリサーチの結果を述べます。文献調査では一つの問題についての解釈の変遷、学説史等ですが、フィールドワーク等では測定・観察した数値です。このパートはいわば「**客観的事実**」ですから、主観はできるだけ書かないのが基本です。
(3) 調査結果から、仮説は支持されたのか、否定されたのか？ その結果をどう解釈をするか？ あるいは、どんな新説・提案を唱えるか？ これが「**考察・議論** (ディスカッション)」です。再び、あなたの**主観**が前面に出てきます。

ここで一つだけ付け加えておきます。リサーチの過程で「**失敗**」を感じることもあるかもしれませんが。例えば、**仮説にうまくあわない**。しかし、それは失敗というより、**新たな可能性**を示しているのかもしれない。そこでは、「既存の考え方に無理にあわせて、ごく平凡なレポートにする」より、「失敗」の原因は何か？ 少し視点あるいは方法を変えれば、実は誰も気付いていない新発見があるかもしれないのではないか？ あるいは、ひょっとしたら教科書等の方が間違いなのではないか？ 様々な疑問がわきます。自分で単純に“失敗”と決めつけず、先生や専門知識をもった方に相談しながら、今一度全体を振り返って見ましょう。失敗こそ、あなたにとっては前進のきっかけであり、新発見の母かもしれません。

さて、右下の図はビジネス関係の本に掲載されていたマーケティング・リサーチの模式図ですが、基本的な構図は自然科学等でも同じです。この図の「**リサーチ目的の明確化**」こそが、まず皆さんが直面する課題です。例えば、欧米の会社が日本進出の際、「**アメリカでよく売れている商品が、日本の消費者に受け入れられるだろうか？**」、これがリサーチ・テーマだとします。**仮説を立ててみましょう**。

- ① 仮説1 : 何も変えなくても、売れる
- ② 仮説2 : デザイン等を多少変えれば売れる。
- ③ 仮説3 : アメリカでの販売戦略と異なる戦略を採用すれば売れる。
- ④ 仮説4 : どうやっても売れない。

(十さらにほかの仮説を考えてみましょう)

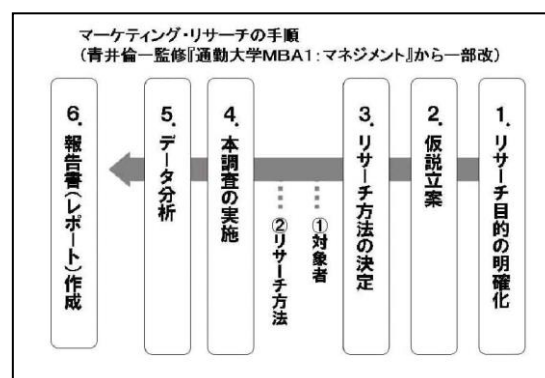


図1. マーケティング・リサーチの手順
(青井、2002、29 頁の図を一部改変)

こうしてリサーチを進める際、とりあえずたてる仮説を「**作業仮説**」と呼びます。そして、これらの作業仮説にそってリサーチを進めていく、これが仮説検証型のリサーチです。ここでは仮説はあなたの考えを整理し、現実を見つめ直し、そこから真実を知っていくための“道具”なのです。

なお、リサーチはテーマ（目的・仮説）、リサーチ（調査）、そしてディスカッション（考察・提案）と進みますが、そのディスカッションをベースにさらに新しいテーマに進んでいく、という循環的な構造を示します。こうした作業は、実は、会社等での報告書や新ビジネスの企画書、上司への稟議書を作成する場合にも等しく重要です。

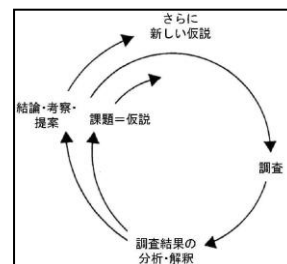


図2. リサーチの循環的構造（マーティン&ベイトソン、1990）

したがって、レポート作成の際には、とくに“序（＝問題提起）”と“結果（＝調査結果という客観的事実）”と“考察（＝ご自分の主観的かもしれない**指摘、主張、提案**）”が一貫したストーリーで貫かれていることに気を配ってください。さらに、“考察”が次のステップに向けて、つまり新しい課題＝仮説を生み出すように工夫することをお願いします。

それでは、次のChapter 2で、具体的なリサーチ・レポートの枠組み作りについて、説明をします。

引用文献

青井倫一（2002）『通勤大学 MBA』総合法令。

関西学院大学総合政策学部編（2012）『基礎演習ハンドブック』関西学院大学出版会。

マーティン、P. & ベイトソン、P.（1990）『行動研究入門』（粕谷英一他訳）東海大学出版会。

サイード、EW（1993）『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）平凡社。

白上謙一（1972）『生物学と方法』河出書房新社。

■課題についての解説

（1）“**近東**”、“**中東**”、“**極東**”等との呼び名は「何処からの目線」か？

もちろん、ヨーロッパ、とくにイギリス外務省あたりからの目線にほかなりません。なお、極東も含め、アジアは一般にオリエントとも呼ばれます。これもヨーロッパから見て東方の地域という意味で、異文化として様々なイメージが付与されています。思想家の E・サイードはこうした一種の西洋中心主義を“オリエンタリズム”と呼び、批判しています（サイード、1993）。

（2）インドネシアの**公用語**であるインドネシア語は、どの民族の言語でしょうか？

インドネシア語とは、スマトラ島のリアウ州に暮らしている人たちが話すマレー語のスマトラ方言をもとにしています。したがって、多民族国家インドネシアにおいては、国民の大半にとって必ずしも母語ではありません（例えば、ジャワ島でもジャワ語やマドゥラ語等に分かれます）。一方で、インドネシア独立に際し、多民族・多文化間でコミュニケーションできる言葉（共通語＝リンガ・フランカ）として、海上交易を通じて広がったマレー語スマトラ方言が公用語に採用されたのです。

（3）“新大陸（アメリカ大陸）”を**発見**したのは誰か？

この設問は二つの意味があります。一つは「氏名は、その方が育った民族での呼称に従いましょう（原音主義）」、もう一つは「誰がほんとうに新大陸を発見したのか？」です。まず、氏名ではコロンボ（イタリア語）は日本では一般にコロンブスと、また、マガリャンイス（ポルトガル語）はマゼラン／マジェランと呼ばれていますので、その点、ご注意ください。次に、「誰が新大陸＝アメリカ大陸を発見したか？」ですが、以下の答えがあります。

- ・人類最初の発見者は⑥で、ネイティブ・アメリカン／ファースト・ネーション等の祖先の誰か。
- ・ヨーロッパ人としての最初の発見者は、ヴァイキングの④レイフ・エリクソン。
- ・大航海時代の幕を開けた大西洋航路の開拓者としては、①コロンボ（コロンブス）。
- ・“新大陸”としての存在を指摘、アピールした者として、②アメリゴ・ヴェスプッチ。

2016 年 12 月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

課題研究ハンドブック Chapter 2（試作版）

～リサーチのテーマおよびアウトライン～

リサーチ／レポートのテーマについて

Chapter 1 をお読みになればお気づきでしょうが、皆さんにとって最初の難問は「テーマを決める」ことです。適切なテーマが決まれば、そこでリサーチの枠組みも一応できてしまいます（もちろん、フィールドワーク等で現地に入れば、頭の中で考えた仮説等、どこかにふっとんでしまうことも、しばしばです＝それもリサーチの醍醐味です）。それでは、テーマを深めるにはどうすればよいのか？ 『基礎演習ハンドブック』（関西学院大学総合政策学部、2012）等を参考に紹介しましょう。

テーマの深め方 1 課題を論じる際の階層性：どの視点・レベルでリサーチするか？

まず、一つのテーマをとりあげる際、いくつもの視点から問題設定できることを覚えて下さい。

例えば、あなたが「**脳死とそれを前提にした臓器移植**」に関心がある、とします。このテーマをどんな視点・レベルから論じることができるでしょうか？ 以下、住正明（1993）にならって、自然科学から哲学・価値観のレベルまでどんな問題設定が可能か、考えてみます。

レベル1（**自然科学**）：生物学では「死はどんなメカニズムか？」を厳密に論じるかもしれません。

レベル2（**応用科学**）：医学・保健学では「脳死をどう定義するのか？」、「脳死状態の臓器をどうやったら支障なく移植できるのか？」等を論じるかもしれません。

レベル3（**社会科学**）：法学では「法的には脳死をどう定義するか？」、経済政策では「移植手術にともなう高額な医療費をどのように保障するか？」、医療政策では「臓器移植ネットワークをどのように構築するか？」等かもしれません。

レベル4（**人文科学**）：哲学・倫理学・宗教学等では「脳死に関する医療倫理は？」、「その社会は脳死を受け入れるのか？」「死生観は変わるべきか？」等を考察するかもしれません。

このように同じテーマでも、どのレベルをベースにリサーチするかで、議論も変わるかもしれません。もちろん、自然・応用科学のレベルを無視して、社会・人文科学的視点だけで議論することは許されません。また、その逆も同じです。他のレベルも十二分に意識し、複層的な視点でテーマを見直すことであらためて課題の奥深さや難しさを知り、リサーチに重みを加えることが大切です。

テーマの深め方 2 一つのテーマをめぐる4つの要因

もう一つのテーマの深め方も紹介しましょう。ノーベル賞受賞者N・ティバーゲンは、行動生態学の分野において、一つのテーマについて研究方針を定める際、**近接（至近）要因、発達、機能、進化（究極要因）**の4つを意識する必要があると指摘しました（マーティン&ベイトソン、1990）。

もちろん、この考え方は社会科学でも応用できます。例として、Chapter 1 で少し触れた**共通語**（リンガ・フランカ）をとりあげましょう。こうした共通語には東アフリカのスワヒリ語等のように、複数の文化が影響、融合してできた言語が珍しくありません。この場合は以下のように整理できます。

近接（至近）要因^注：母語（民族語）が異なる人たちでも、互いにコミュニケーションできる。

発達：（かつては）異民族間の交渉の場で身に付けたが、現在は学校制度や放送等で普及している。

機能：共通語によるコミュニケーションで**多民族国家**を形成、**学校教育制度**を維持している。

進化：異なる民族が接触するうち、複数の言葉が混じり合い、共通語が成立した経緯を考察する。

高校生が学ぶ課題研究

こちら、ご自分の関心がどのレベルなのか、そして、他のレベルではどんな問題設定が可能か、意識することでリサーチの質を深めることができます。例えば、①スワヒリ語でのコミュニケーションの実態、②スワヒリ語を学ぶ経緯（学校教育）、③スワヒリ語がタンザニアという多民族国家で果たす機能（言語政策）、最後に④どのような歴史的経緯によってスワヒリ語が形成されたか、です。

注：近接（至近）要因とは英語の **proximate factor** を訳したのですが、訳語ではイメージがわきにくいかもしれません。ある現象が発生した時に、その現象を直接引き起こすメカニズム等をさします。

テーマの深め方3—他の方との意見をまとめる＝K J法

さて、リサーチでは**グループ作業**が珍しくありません。そこで肝心なのは、一つの事実を見たとしても、人によって視点も異なれば、評価も異なるということです。当然、あなたとは違う意見が出てきます。そんな時、議論の整理に便利なスキルの一つが**K J法**です。

図3は、ある地下街を対象とした予備調査から、重点項目抽出のために作成されました（水野、1978）。まず、予備調査で気付いたことを、1テーマ1枚のカードに書き出します。そのカードを磁石等で黒板等に貼りつけ、共通性と相違性を目安に並び替えていきます。すると、カードが自然に系統・整理され、問題点の構造が浮かび上がり、リサーチの全体像がまとまります。これが企業でもよく用いられているK J法の基本です。肝心なのはこうした手法を使い、多様な意見や資料をまとめ、一つのリサーチやレポートにまとめていくことです。

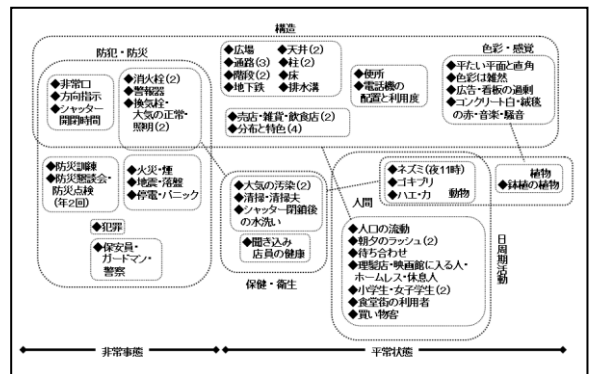


図3. 予備調査で気付いた課題を整理（水野、1978）

テーマの深め方：失敗をおそれず、オリジナルなテーマを！

最後に、Chapter1でも触れたことですが、ここで再び、リサーチでの失敗を恐れて「ごく平凡なテーマ」、あるいは「最初から結論が決まっているようなテーマ」は避けて下さい。

どなたも手がけていないテーマ、そして手がけているうちに、初めの構想からは“失敗”かもしれないが、その失敗の結果として新事実が見つかるようなテーマへのチャレンジが大事です。先生方にも、そのようにご指導していただければと思います。

テーマを絞り込む

課題研究で多くの方が陥る“罣”は、テーマをなかなか絞りきれないことかもしれません。そこで、参考例として、高校生の方がSNSを通じて大学の先生にテーマについて相談した実際のやりとりを再録してみましょう。なによりも、一つのテーマについてどんな視点からリサーチするか、先生方からのコメントに注目して下さい（なお、原文を一部修正・編集してあります）。

私は夏のオーストラリア・キャンベラでのフィールドワークで、「遺伝子組み換え作物」に興味を持ちました。

現在、世界では不適切な灌漑農耕等で作物が育たなくなり、その結果、貧困・飢餓が生じています。そこで私は遺伝子組み換え作物を用いて、貧困・飢餓を改善できないかと考えました。また、全ての灌漑農地ではなく、灌漑農業により発生した「塩害」に絞りたいと思っています。それで、「遺伝子組み換え作物(耐塩性作物)で塩害地域での貧困を解決できるのか」というのが、今、私が考えている漠然としたテーマです。

ところが、多くの本やサイト等で、遺伝子組み換え作物は否定されているのが現状です（今日の農業の経済システムによって貧富の差が拡大する、企業の利益にしかならない、等が主に挙げられています）。レポートを書くにあたって、私は農業の経済システムから始めると、肝心の「塩害地域での遺伝子組み換え作物の活躍の可能性」について書けないのでは？ と思い始めました。しかし、遺伝子組み換え作物を貧困地域に浸透させるためにはとても重要なパーツでもあり、レポートの内容や構成にとっても苦戦しています。

どのようにリサーチして、どんな内容・構成をとれば良いか、アドバイスを頂けたらなと思っています。

すると、国際公務員出身の先生が、以下のコメントを返されました。

もう少し因果関係を整理して下さい。例えば、

1. 貧困飢餓の原因は？ 途上国を対象にしていますか？ それとも産業国の国内生産性ですか？
2. 貧困地域の自助努力と貧困緩和に関する技術移転との関連は？ ハイテクの遺伝子組み換えは、Policy の一部ですが、産業国の国内政策には効果があるとしても、途上国との関係ではどうなるのか？ 途上国がそれに過度に依存し過ぎたらどうなるのでしょうか？
3. 農業の生産性向上に関して、遺伝子組み換えは One of Them です。その他の Option は？
4. UN/FAO 関連の WEB をもう一度、熟読して下さい。特に MDGs・SDGs の取り組みは大事です。食料運搬過程で 20%以上のロスがあることを知っていますか？

テーマを整理する！ 実は、学会等では、若手からの発表に「そのテーマは範囲が広過ぎ！ 絞る必要がある」、「絞れば、問題点が整理され、自分の関心がはっきりする」、「もう少し別の視点もあるよ！」等のアドバイスをよく耳にします。これらのコメントを考慮しながら遺伝子組み換え作物を扱えば、リサーチの**深みが増します**。次は、別の先生からのコメントです。

塩害農地への遺伝子組み換え作物での対処というテーマは興味深いものです。ただし、現在の日本では遺伝子組み換え作物に否定的な見方が強いことはお書きの通りです。(略) その上、遺伝子組み換え農作物をめぐるのは、①作物の管理（自生や交雑による遺伝子汚染や生物多様性等に対する影響等）、②安全性の問題（食品自体の安全性と、特定の害虫を殺す事等による影響等）、③企業が遺伝子組み換え技術等で作物を独占して、農家や食料生産を支配する可能性等、とても複雑な議論があります。これらの複雑な問題のどこに重点をおくか？そこをまず決めるのがポイントです。

農水省のHP 等をお調べになっていますか？ 国レベルの議論を知ることがまず大事です。(略) その上で、レポートをどんな形で構想するか？ 可能性として、(1)～(4)をあげますが、御参考にできれば幸いです。

(1) 人が直接口にする食品作物以外で導入

- ①塩害農地の再利用に、耐塩性ユーカリ等によるバイオマスエネルギー、紙パルプ利用等を考える。
- ②ワタ等の工業原料等の作物を考える。
- ③飼料用のトウモロコシ等、家畜動物の飼料として利用する作物を考える。

(2) 塩害対策として、土壌から塩を吸収するような植物を遺伝子組み換えで開発する。

- ①その植物で除塩する（作物としては利用しない）。
- ②除塩後に、その土地で再び塩害が起こらないような、新しい農業技術（点滴灌漑等）を導入する。

(3) むしろ正面から、遺伝子組み換え技術利用を全面に打ち出す。

- ①安全性が証明されたならば、どんどん耐塩性の新品種を導入することを奨める。
- ②その場合、企業による農業支配が広がらないような政策的対策を考えた方がよい。

(4) 遺伝子組み換え技術ではなく、従来型の品種改良による耐塩性農作物の品種改良、あるいは海浜部等での植物を調べて、作物として利用可能な品種を探る（これが従来型の育種技術ですが）。

こうして自分自身が最終的に何を知りたい／訴えたいのか、テーマがはっきりしたら、あらためてタイトルを考えます。必要ならサブタイトルも加えて「アフリカの飢餓を救う～遺伝子組み換え作物による塩害農地の地力回復～」等とします。なお、タイトルはそれだけで内容がイメージできるように工夫して下さい。一方で、たんに物珍しいだけで、他人に何も伝わらないタイトルは避けて下さい。

リサーチのアウトラインを考える

テーマが決まれば、リサーチの**アウトライン**を想定します。このアウトラインはそのままレポートの構成ともなります。以下は、もう一人の高校生の方へ、アウトラインをアドバイスした例です。

現在、私が興味を持っているのは、日本（特に JICA）が行っているケニアへのボトムアップの支援です。今考えている論文の構成は、

1. ケニアの現状
2. ケニアで今何が起きているのか？（とくに貧困面について）
3. なぜそのような現状なのか？

（次頁に続く）

- 4.日本がしている支援（ボトムアップ）は？
- 5.その支援は役立っているのか？（役立っているとは、現地の人がちゃんと支援物資の使い方を知っていて、有効にその支援物資等を使っているかという意味）
- 6.現地がしていることは？ 有機農法等←ボトムアップ（他国からの支援以外に現地の人たちがどのようなことをしているかという意味）
- 7.有機農法はどのような役割なのか？
- 8.有機農法をするのはどのようないい点があるのか？
- 9.解決策

私はこの構成をフィールドトリップ先で聞いたお話をベースとして構成しました。ここで、私が皆さんに教えていただきたい内容は、

- 1.この構成について、どのようにしたらもっと内容も含め絞り込んでいけるのか、またこれで良いのか？
- 2.論文を作成する上で、自分のボトムアップの定義を示した方がよいのか？ またどのような事を定義すればよいのか？
- 3.学校の図書館で本等を調べているのですが、なにか先生がお知りになられていることや、これに対しての先生方の意見やアドバイス、また参考になるような文献を教えてください。

私も JICA の派遣専門家を2年努めましたが、アフリカの現地の問題は複雑です。それを扱うには、ご自分の考え方をまず整理することが必要です。そのためにリサーチ・レポートの構成を考えましょう。（略）
いただいた内容を（序・内容・考察という）リサーチ・レポートの枠組みに当てはめると、以下のようなになるかもしれません（下線部があなたの構成に含まれていたパーツです）。

- I. 序：テーマとその重要性の説明
 - I-1. 主なテーマ：日本（特に JICA）が実施しているケニアへのボトムアップ支援であることを説明
 - I-2. 「ボトムアップ支援とは何か？」を説明
 - I-3. そして「自分はどんな視点から、ボトムアップ支援をリサーチのテーマに選んだのか？」を説明
- II. リサーチの対象の紹介
 - II-1. ケニアの紹介（ケニアの現状を説明）
 - II-2. フィールドトリップ先での体験や、有機農法に關係するボトムアップ支援を説明
- III. リサーチの結果
 - III-1. ケニアの全般的な状態を説明
 - ・ケニアで今何が起きているのか（貧困面について）
 - ・なぜそのような現状なのか
 - III-2. 現地で有機農法の現状
 - ・現地の人たちがどのようなことをしているか？ 有機農法等について説明
 - III-3. ボトムアップ支援を紹介
 - ・日本がおこなっているボトムアップ支援
 - ・その支援は役立っているのか？ 現地の人がちゃんと支援物資の使い方を知って、有効にその支援物資等を使っているか？
- IV. 議論
 - IV-1. アフリカで有機農法がこれから果たすべき役割、将来性
 - ・有機農法を実施すると、どんな良い点があるのか？
 - ・有機農法は今後アフリカの発展にどんな役割を果たすのか？
 - IV-2. 私自身の提案
 - ・解決策

なお、現在、マダガスカルでは伝統的農法から発展させた SRI 農法と、日本の伝統農法を活かした PAPRiz 農法等が展開しているそうです。詳しいことは以下の web をお読み下さい。

- ・http://www.madacom.org/conference/summary/conf19_02.html
- ・http://www.madacom.org/conference/summary/conf19_03.html

このコメントの骨子は、“**序**”をつけ加えた上で、“**対象**”、“**結果**”、“**考察**”を仕分けしたことです。とくに、“序”では「テーマを絞る＝明確化する」ことが重要です。それはレポートの読者に対しては「これがテーマです」というアピールですが、同時に、筆者＝自分自身にとっては「これが絞り込んだ本当のテーマなのだ」と自覚することです。こうしておのずとアウトラインができあがります。

引用文献

関西学院大学総合政策学部編（2012）『基礎演習ハンドブック』関西学院大学出版会。
 マーティン・P&P.ベイトソン（1990）『行動研究入門』（粕谷英一他訳）東海大学出版会。
 水野寿彦編（1978）『動物生態の観察と研究』東海大学出版会。
 住明正（1993）『地球の気候はどう決まるのか？』岩波書店。

2016年12月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

課題研究ハンドブック Chapter 3（試作版）

～リサーチ・スキル1～

リサーチ・スキルについて

リサーチのなかでも、とくに**仮説検証型**のリサーチ等では、仮説のどれが正しいか、あるいはどれも間違いなのか、調べなければなりません。そのためにも、どんな対象の人を調べるのか（＝調査対象）、どんな方法で調べるのか等も決める必要があります。そして、結果の「分析」には、「統計」やグラフが用いられます。それでは、『基礎演習ハンドブック』（関西学院大学総合政策学部、2012）等を参考に、リサーチ・スキルを具体的に説明しましょう。

具体的な方法について

リサーチには種々の方法がありますが、Chapter3 と Chapter4 では、以下の方法を紹介します。

- （１）**公刊データ**の利用
- （２）**インタビュー／ヒアリング**調査
- （３）**アンケート票**による調査（以下、アンケートと略します）

とくに公刊データの利用のコツを会得するのは重要です。まず、犯罪統計や経済データ等は自分たちで集めることができません。一方で、政府やその他の機関が、自分たちが知りたいと思うことに近いデータを集積・公表していれば、それを使って自分たちの仮説・主張が証明できるか、分析できます。とくに国際問題等では、公刊資料を自分でさらに分析しないと、わからないことが多々あります。

対照的に、自分で資料を集めるのが（２）（３）です。インタビュー調査やアンケート票による調査は、高校生の皆さんにも、なじみがある方法かもしれません。（２）が少数の方を対象とした定性的調査（**質的調査**）の色彩が濃いのに対して、（３）は大量に回収したデータを統計的に処理する定量的調査（**量的調査**）です。本当は、「深いが狭い」インタビューと「浅いが広い」アンケートの双方を組み合わせることこそ望ましいのですが、実際には、時間的な制約等でどちらか一方を選ばざるを得ないことが多いようです（佐藤、1992）。

公刊データをうまく使いこなそう

現代は、膨大なデータがWeb で公開されています。例えば、日本政府による統計データは「**e-Stat：政府統計の総合窓口**」で公開されています（総務省 HP）。国民の税金を使っておこなわれた調査は、その税金を負担した国民に広く公開されなければならないのです。ということは、皆さんも、こうしたサイトから、リサーチのためにどんどんデータをダウンロードしましょう。それは国連統計等でも同様です。

ところで、皆さんにとって、どこにどんな社会統計が存在しているか知ることが重要です。そこで、具体的な例として、国際的な貧富の格差の指標として使われる「**一人当たり国内総生産（GDP）**」をとりあげます。GDP とは「その国の人々が（通常）一年間に生み出すことができる新たな価値」を表す指標です。例えば、小麦の種籾からパンが作られますが、その生産・流通プロセスで、様々な人や機械によって新たな「価値」が加えられます。この新たな価値は「価格」で評価され、「利益」として、働いた人と機械（＝その持ち主である株主）に配分されます。そのためGDPは、「その国の人々に分配できる富の総額」も意味します。つまり、一人当たりGDPはその国の人々の平均所得を近似しているのです。

しかし、当然、GDPのデータを個人で作ることはできません。ではどうやって入手できるのでしょうか？ 高校生の皆さんに一番手っ取り早いのは、総務省統計局 HP の「世界の統計 2016」を調べることでしょう (<http://www.stat.go.jp/data/sekai/O116.htm>)。「3-3 1人当たり国内総生産（名目 GDP，米ドル表示）」というタイトルで、エクセルの表としてダウンロードできます。

国際通貨基金 (International Monetary Fund, IMF) の HP にはさらに詳しいデータがあります。そこで調べた 2005 年の国別の一人当たり GDP (USドル表示) を、エクセルで左から低い順に棒グラフに変換したのが図 1 です (180 カ国にもなるので、国名は削除)。最も左に位置する国の一人当たり GDP はほぼ 0、最右翼に位置する国は 8000 ドル近くになります。一ドル 100 円で換算すると年間 800 万円に達します。この最も貧しい国と豊かな国はどこでしょうか？

表 1 に上位 20 カ国と下位 20 カ国を抜き出しました。最も貧しい国はアフリカのブルンジで 106.9 ドル、年間 1 万 1 千円弱しかありません。最も豊かなルクセンブルクと約 750 倍の格差があります。日本は 14 位で、1 年間の平均所得は約 360 万円です。

肝心なのは、「では、なぜこんなに格差があるのでしょうか？」という疑問です。もちろん、これがわかっているなら、国連も N GO も苦労しません。教育水準や所有権の設定、民主的な政治システム等様々な要因が指摘されていますが、経済格差は少なくとも現代でも解決できていない問題です。

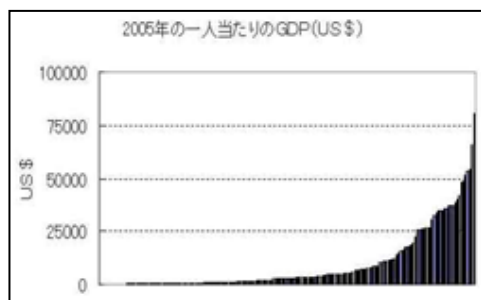


図 1 一人当たりの GDP 比較 (2005)

下位20カ国		上位20カ国	
ブルンジ	106.9	ルクセンブルク	80080.3
コンゴ民主	123.3	ノルウェー	65509.2
リベリア	154.0	アイスランド	54115.7
エチオピア	155.7	カタール	53332.9
ギニアビサウ	190.1	スイス	51277.7
ガンビア	207.0	アイルランド	48705.2
エリトリア	207.4	デンマーク	47905.5
ミャンマー	219.9	アメリカ	41885.9
マラウイ	222.0	スウェーデン	39621.0
シエラレオネ	222.9	オランダ	38871.3
ルワンダ	238.3	フィンランド	37320.2
ニジェール	265.4	イギリス	37303.3
マダガスカル	270.0	オーストリア	37120.2
アフガニスタン	284.5	日本	35671.5
ウガンダ	303.1	ベルギー	35450.7
中央アフリカ	335.4	カナダ	35199.0
タンザニア	336.2	フランス	35043.6
トーゴ	343.6	オーストラリア	34941.5
モザンビーク	348.3	ドイツ	33919.1
ギニア	351.5	アラブ首長国	32391.6
平均	244.3	平均	43783.3

インタビューや聞き取り

インタビュー／ヒアリング

公刊されているデータの話から一転、フィールドワークで定番のインタビューやヒアリングに話を移しましょう。最近、政治家や経営者に長時間インタビューして「オーラル・ヒストリー」としてまとめる仕事も増えてきましたが、インタビューや現地調査は研究対象・情報提供者の人々と親しい関係を築き上げながら進めます。その際、取材対象の方々（インフォーマント¹）への尊敬の念とプライバシーの尊重をお願いします。とくに、インタビューでのやりとりを録音したり、写真を撮影する時には必ず同意や許可をいただきます。

それでは、インタビューの実例として、日本の民俗学者で全国各地を訪れ、名もない人たちとの会話から様々な事実を掘り起こしてきた宮本常一の『忘れられた日本人』から、対馬の漁村の成り立ちを語る「梶田富五郎翁」を少し引用しましょう（文章は若干改編）。

郵便局で局長さんとの村（対馬豆酸村浅藻）の話色々としているうちに、この村の開拓者がたった一人生き残っていることを教えられた。それが梶田翁であった。一つの村の成長をそのはじめからずっとみつめてきた人である。これはたいへんなことである。

¹ インフォーマント (Informant) とは、フィールドリサーチで情報・データを提供していただいた方をさします。

翁は煙ですすけた家の板間で釣り道具をつくっていた。

「爺さんは山口県の久賀の生まれじゃそうなが、わしも久賀の東の西方の者で、なつかしくてたずねてきたんじゃが」と話しかけると、「へえ、西方かいのう、へえ、ようここまできんさったのう、はア、わしもひさしゅう久賀へもいんでみんが、久賀もずいぶん変んさつろうのう」

郷里の言葉をまる出して話し出した翁に、初めから他人行儀はなかった。私が「昔のことを聞かしてもらおうと思うて」と一言いうと、「はア、わしがここ来たのも古いことじゃ」と話し出した。(略)

「巖原で問屋と契約して、その年(明治9年)から問屋が浅藻へ納屋をつくることになって、わたしの船は浅藻へ来た。いま、こがいにひらけてええ町になっているが、わしがはじめて来たときア、この浦は木が立ち暗うじよってのう。(略)人も誰もおらん。ないだ(渚)はたまで木が茂って、木の枝が海につくほどじゃった。たった一軒、浅藻と小浅藻の境の鼻の上に吹き転がすような納屋があった。その下へ平戸の者がブリの建網を入れていて、その番人の小屋じゃった。(略)

「その頃になるとわしもだいぶ物心がついてきて、久賀で菓子屋をするのもええが、身寄りも少ないんじゃし、どこで何をしてもええ身のじゃから、いっそ漁師で暮らそうと決心して、本気で釣漁をなろうことにしやした。浅藻もそれからだんだん開けてきて、みんなも鋸や鍬を持ていて、木を伐ったり、土をなしたり、ちょっとは畑もひらいて野菜もつくるようにして、どうやら人の住めるようなところにしたんでござす。(略)

「そねえあタイを1日10枚も釣ってみなされ、たいがいじゃアええ気持ちになるで晩にやいっばい飲まにゃならんちう気にもなりませい。そういう時にゃア金儲けのことなど考えやアせん。ただ魚を釣るのがおもしろうて、世の中の人がなせみな漁師にならんぬのかと不思議でたまらんほどじゃった。(略)

「はア、おもしろいことも悲しいこともえっとありましたわい。しかし能も何もない人間じゃけに、おもしろいということも漁のおもしろみぐらいのもの、悲しみというても、家内に不幸のあったときくらいで、まアばアさんと50年も一緒に暮らせたのはなによりのしあわせでござした。

だいぶ話しましたのう。いっぶくしましようかい」

日がな1日、昔を知る老人の話をうかがううちに、村のなりたちも、人々の暮らしの移ろいも、その老人が送った人生も、いつのまにか、身に染み込むように伝わってくる。

フィールドリサーチは必ず“相手”がいらっしゃるわけですが、“相手”からの話を聞くうちに、自らの姿も見えてくる＝他者とのかわりから、自らもより深く知ることができる、これがフィールドスタディの真髄です。もちろん、そのためには、事前に入念な下調べが必須です。尋ねなければならぬ項目をあらかじめ整理し、相手の発言がより理解できるように背景を知っておかねばなりません。

Family history を探ろう～自らの家族の来し方を調べる～

インタビューの相手ですが、ヒアリングに訪れた役所やNPO/NGO、企業の方などをお考えになるかもしれませんが、皆さんの祖父母あるいは曾祖父母の方に、皆さんの家の“Family history”をお尋ねになるのも興味深いかもしれません。ご自分の祖父母や曾祖父母の方々がどこでお生まれになり、どんな暮らしを送ってきたのか？ 意外に知らない事実には驚くことになるかもしれません。

図2は、東北のある県の西部、伝統的な米作地帯の一夫婦とそのこどもたちの系図です。これだけでも、明治から大正、昭和を経た近代化において、個々の庶民がどう暮らしてきたのか、伝わってくるものがあります。例えば、この母親は1897～1922年の25年間に10回出産しています(2.78年に

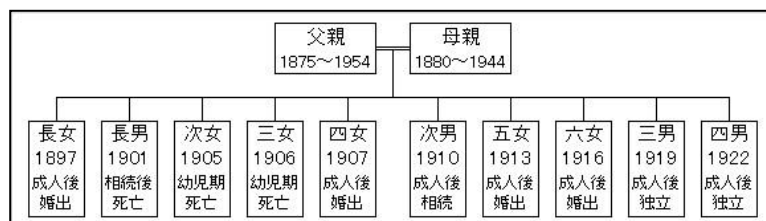


図2 明治から大正にかけての東北の一農家における子供たち

1 回子供を産んでいたことになります)。男子が4人、女子が6人、そのうち女子2人は幼児期に死亡、8人が成人まで育ちます。さらに長男は家を相続後に死亡し、次男が継ぐことになりますが、残りの7人は(第2次世界大戦もなんとか生き残って)天寿をまっとうします。単純計算ならば、1世代(およそ20~25年)で、人口が2人から7人と、3.5倍に増えたとも言えます。もっとも、田畑は増えませんから、結局は“あととり”をのぞけば、女子は婚出、三男と四男は学校を卒業後、都会に出て、給与所得者になります。

これが明治から昭和にかけて、日本の近代化とともに人口が急増し、その多くは農村生活者から都市生活者に転換していく縮図です。そして、その間に様々な“Family history”が展開されてきたはずで、それをインタビューで聞き取っていくことも、そしてそれらの資料を束ねて、地域の歴史を紡いでいくことも、十分に社会的貢献(Chapter 1 参照)になるかもしれません。

聞き書き

インタビューの比重がさらに大きくなると、「聞き取り調査／ヒアリング」に、さらに情報提供者(インフォーマント)の声がメインになると、独白体の「語り＝聞き書き」等に移行します。

聞き書きのもっとも優れた例の一つに、アメリカのジャーナリストS・ターケルの『仕事!』があります(ターケル、1983)。プロ野球選手から消防士まで、135人のアメリカ人が、自分がたずさわる115種の「仕事」を淡々と語るさまには圧倒されるだけです。例えば、この分厚い本の冒頭、一人の製鋼所労働者が切り出します。

おれは滅びつつある人種、肉体労働者だ。ずばり筋肉労働……あげたり、さげたり。一日4、5万ポンドの鉄鋼を扱う。(笑う)……誰かがピラミッドをたてたのさ。なにをたてるにしたって、誰かがたてるのさ。ピラミッド、エンバイヤ・ステートビル、ただなんとなくできた、といううなもんじゃない。うしろにゃ、きつい仕事があるってもんよ……壁にずらっとレンガ工、配電工から何から何まで、ひとりひとりの名前が刻まれているのを見たいもんだよ。それで、おっさんが息子を連れてきたりして「ほら、45階のあそこに、おれの名があるだろ。おれが鉄骨をいれたんだ」という。ピカソは絵を指さすことができる。おれはなにを指させるというのかね。作家は本を指させる。誰もが、指さすことができる「自分の仕事」を持つべきなんだ。

実は、高校生の皆さんには、「自分にとって仕事とは何か?」、「人生にとって仕事を持つ意味は何か?」を考えていただくためにも、ぜひこの本をお読みいただければ、とも思います。

それはさておいて、ここまで完璧な聞き書きを実現するためには、事前に入念な下調べが必須です。こうして、数時間のインタビューのため、事前準備に何日も費やす努力が要求されるのです。

引用文献・Web 情報

関西学院大学総合政策学部編(2012)『基礎演習ハンドブック』関西学院大学出版会。

宮本常一(1984)『忘れられた日本人』岩波書店。

佐藤郁哉(1992)『フィールドワーク』新曜社。

総務省 HP「e-Stat」(<https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>)。

ターケル、S(1983)『仕事!』(中山容他訳) 晶文社、1983。

2016年12月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

課題研究ハンドブック Chapter 4（試作版）

～リサーチ・スキル2～

アンケート票による調査について

Chapter 3 に引き続き、『基礎演習ハンドブック』（関西学院大学総合政策学部、2012）を参考に、アンケート調査法を説明しましょう。この調査方法では、質問票によって多数の方から回答を集め、その結果を統計ソフト等で集計・分析します。

と聞けば、いかにも簡単に大量のデータを扱える、気が利いた方法と受け取られるかもしれませんが。しかし、実際は（以下に紹介するように）なかなか手がかかり、質問票作成にも、結果の解釈にもハードルが高い調査法です。うっかりすると目の前の数値の意味を汲み取れず、主観的な主張にとどまることになりかねません。リサーチの初心者はず、Chapter 3 で説明した公開データの分析やインタビュー等で、現象の全体像を把握してからチャレンジしても遅くないのかもしれません。

アンケートでのリサーチ・デザイン

（他の方法でも同じですが）重要なことは「どうしても知りたいことを知ることができるのか？」という「**リサーチ・デザイン**」です。とくに①**サンプル**（研究対象、標本）をどのように抽出するか？＝**標本設計**、②**時期や回数**＝時間的枠組み、③**収集方法**＝自記式、他記式、郵送、電話インタビューか？ ④**質問票**の文言、⑤**分析方法**等に気を配らなければなりません。ここでは標本設計、質問票の文言、分析方法について簡単に触れましょう。

- （1）**標本設計**：一番の問題は「アンケート対象者をどう選んだか？」です。「社会の平均値」を知るためには「無作為抽出法」が必要ですが、学校等で実施する場合、たいてい「作為抽出」＝一定の傾向がある可能性が強い人々から集めたデータです。そのため、結果の解釈に注意が必要です。
- （2）**質問文**：質問文作成には時間と労力がかかります。例えば、「喫煙は健康に良くないのでやめるべきだ」という質問文は、喫煙について「健康によくないと思うか？」と、「やめるべきだと思うか？」との2つの問いが含まれています（これを“ダブル・バーレル”と呼びます）。そのため、「喫煙はやめるべきだと考えているが、その理由は健康に良くないからではない」という方は回答に困ってしまいます。文言に迷った時や、困った時は先生方に相談しましょう。
- （3）**分析方法**：質問文作成の際、あらかじめどんな分析をするのか、考慮する必要があります。なお、この分析方法とは**単純集計**（単独の質問の回答を集計すること）より、複数の質問に対する回答の関係を分析する**クロス集計**や**相関分析**、**多変量解析**等を指していると思って下さい。

アンケート調査の実例を紹介しましょう

以上のような説明だけでは、実感もわかないでしょう。そこで実例をあげます（泉、2005）。紹介するのはK大学S学部の学生を対象に、友人および両親との社会関係を調べたリサーチで、主なテーマは以下の3つです。皆さんにもあてはまるかもしれません。

- （1）現代の若者は、自分自身を肯定的に捉えているか？ 文献には「**若者たちは身体的・心理的変化により、自信喪失に陥りやすく、些細なことに不安になりがちである**」とされています。これは本当でしょうか？ 青年期の友人関係を考える上で大事な要素かもしれません。
- （2）若者は親子関係と友人関係のどちらを重要視しているか？ どちらも同じくらい大事なのか、

高校生が学ぶ課題研究

友人関係は親子関係以上の信頼感が存在しない、あくまで表面的な関係なのでしょうか？

(3) 友人関係は、自分自身への信頼に影響を与えているか？ 若者がちょっとしたきっかけで自信を失った場合、彼ら／彼女らはどうやって自信を取り戻すのか？ 友人関係が回復の力ギか？

調査対象に選ばれたのはS学部生123名(男性63、女性60)です。質問票の冒頭が図ですが、参考にして下さい。まず、前文で主旨を説明してから、個人情報の保護を保証します。

問1では、個人の**属性**として、性別と年齢を尋ねます。尋ねるべき属性は、調査目的によって決まります(国籍、性別、年齢、居住地、職業、家族関係ほか)。

若者の自己概念形成と友人との関わり状況に関する
アンケート調査への回答協力をお願い

前文

本アンケート調査は、K大学S学部生を対象に、若者の自己概念形成と友人との関わり状況を調査することを目的としています。調査は無記名で行われ、結果は集計後に公表されるため、個人が特定されることはありません。また、第三者に情報が流出することのないよう、情報管理を徹底に行います。本調査の結果は、K大学S学部卒業研究論文の中で報告いたします。

調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力いただけますようお願いいたします。

調査企画・実施者： K大学S学部 × × × ×
問い合わせ先： xxxxxxxx@xxxxx.ac.jp

問1. あなたの性別についてあてはまる数値に○を付け、() 内に年齢をお書き下さい。

1. 女性 2. 男性 () 歳

問2. 現在のあなた自身についての考えをお聞かせ下さい。それぞれの文章をよく読んで、現在の自分にとって最もあてはまると思われる箇所○印をつけて下さい。

よくあてはまる ややあてはまる どちらでもない あまりあてはまる 全くあてはまる

a. 人にはそれぞれ自分なりの人生があるはずだ、と思っている。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

b. 自分自身の長所も短所も、ありのままに認めることができる。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

c. 物事には、前向きな姿勢で物事に取り組んでいる。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

d. 自分の好きなことがやれている。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

e. 自分はのびのびと生きていると感じる。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

f. 自分自身を十分に信頼している。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

設問3-1 現在のあなた自身と友人との関係についてお聞かせ下さい。あなたの最も仲の良い友人を思い浮かべて下さい。それぞれの文章をよく読んで、それが現在の自分にとってどれくらいあてはまるかを考え、最も適していると思われる箇所○印をつけて下さい。なお、友人は、同性・異性を問いません。

よくあてはまる ややあてはまる どちらでもない あまりあてはまる 全くあてはまる

a. 友人との関係をわずらわしいと感じる。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

b. 友人に対して好意的になれない。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

c. 友人と真実に話し合える。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

d. 友人の前でもありの自分を出せる。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

e. 自主的に友人に話し合える。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

f. 友人に対して、自分がかたがた恐れている。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

g. 自分は友人より劣っていると感じている。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

h. 友人に気がつかないで居る。 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

(以下、省略)

このアンケートでは、質問に対して5段階の選択肢で答えていただく形式をとっています。

図1. 若者の自己概念形成と友人とののかかわり状況に関する質問票の例

問2からが具体的な質問文です。一から質問文を考えるのは難しいものですが、そのためにも事前に(少数の人を対象に)インタビュー調査等の予備調査を実施することをお勧めします。また、文献資料を探し、関連分野で先行研究を調べて下さい。このアンケートでは「青年期における自己意識の構造」(平石、1990)という先行研究による「自己肯定意識尺度」を参考に、自己肯定意識について「人にはそれぞれ自分なりの人生があるはずだと思っている」等の6項目(問2)、友人および親に対する満足度について8項目(問3)の質問を作成しています。

それぞれの問いでは、回答者には5段階の選択肢を選んでもらっています。この選択肢に「**どちらでもない**」という項目が含まれます。世の中は単純に「はい」と「いいえ」だけで片付くわけではありません。「どちらでもない」、「わからない」、「その他」等の選択肢も用意しなければなりません。

集計と分析

13頁で紹介した単純集計、つまり、一つの質問に対する結果だけを集計する方法から説明します。

単純集計：次頁の図2(a)は回答を入力したエクセルのシートの一部で、各行が一人ずつの回答です。例えば、3行目の番号1は女性で19歳、「自分なりの人生があってもいい」と強く思いますが、「長所も短所もありのままだと認めているか？」はどちらでもなく、「前向きな姿勢で物事に取り組んでいるか？」はややあてはまるとの回答です。味も素っ気もないけれど、これが分析の始まりです。

次に、統計ソフトに読み込ませます。図2(b)は、広く使用されているSPSSの画面で、ここまで準備すればあとは比較的容易です。「分析」→「記述統計」→「度数分布表」と進み、分析対象

に「自分なりの人生があってもいいと思う」を選びます。すると「よくあてはまる」81、「ややあてはまる」39、「どちらでもない」2、「あまりあてはまらない」1という結果が得られます。

もっとも、数値の羅列では印象的ではありません。グラフを作しましょう。図2 (c) は、上記の結果を棒・帯・円グラフで示したものです。印象は様々ですが、この場合、円グラフが妥当でしょう (Chapter 7も参照)。

調査者はここから傾向を読み取り、結論を下します。この場合、回答者の大半が「自分なりの人生があってもいい」と思っていると解釈しても異論はないでしょう。日本人は他国に比べて謙虚だとされてきましたが、現代の大学生は自己肯定意識が高くなっていると結論できるかもしれません。

クロス集計：統計ソフトが便利なのは、単純集計からさらに解析を進めていける点です。例えば、図2 (c) の結果に男女差はないのか？ ここで登場するのがクロス集計です。表1はその集計結果です。S 学部生の回答に男女差がないことが一目瞭然なのですが、レポートでは主観的な判断ではなく、統計検定で有意差がないことを確認する必要があります。そこで、次節で簡単な統計を紹介します。

簡単な統計を紹介しましょう

表1は男女差がほとんどないようなので、差がはっきりしている別の例をあげましょう。表2は「食の安全に関する消費者意識と消費意識行動」という調査で「食に大変／少し不安を感じている」と回答した1351名に、「遺伝子組換え食品に不安を感じるか？」を尋ねた結果を、男女別にクロス集計したものです (東京都消費者月間実行委員会、2014)。

この結果を統計学でよく使われる χ^2 (カイ二乗) 検定を用いて、「不安を感じる／感じない」という**観察値**の頻度に男性・女性間で意味がある差 (有意差) が認められるかどうか、試算してみましょう。

まず、表2の結果に「男女間に差がない」と仮定します。これが**帰無仮説**¹です。この「差がない」という帰無仮説が正しいとすれば、「感じる」対「感じない」比率が男女ともに $640 \div 1154 = 0.5546$ 対 $514 \div 1154 = 0.4454$ となるはずで、その場合、帰無仮説からの**期待値**² (正確には観察値から求められる期待値の推定量) は、次のように計算されます。

- ・男性： $206 \times 0.5546 = 114.2$ 人が「感じる」、 $206 \times 0.4454 = 91.8$ 人が「感じない」
- ・女性： $948 \times 0.5546 = 525.8$ 人が「感じる」、 $948 \times 0.4454 = 422.2$ 人が「感じない」

¹ 仮説検定の際、通常は自由度が低い方を帰無仮説とします。この場合、「男女差がない」と仮定すると、「男>女」と「男<女」という二つの選択肢がある「男女差がある」より、自由度が低くなります。したがって、「男女差がない」を帰無仮説とするのです。

² 仮説から期待される値：ここでは「男女差はない」という帰無仮説から期待される値になります。

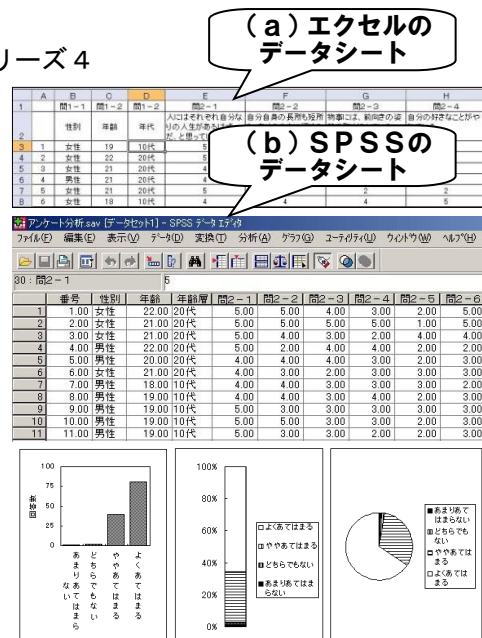


図2. 上から (a) エクセルと (b) SPSS のデータシート、(c) 各種グラフ

表1. 「自分なりの人生があってもいいと思う」への回答

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	計
女性	40	19	1	0	60
男性	41	20	1	1	63
計	81	39	2	1	123

表2. クロス集計例 (一部修整)

	遺伝子組換え食品への不安		
	感じる	感じない	計
男性	84	122	206
女性	556	392	948
計	640	514	1154

肝心の χ^2 乗値の計算式は $\chi^2 = \sum ((\text{観察値} - \text{期待値})^2 \div \text{期待値})$ であらわされます（なお、 $\sum$ （シグマ）は二つ以上の数の総和を表す記号です）。もうお気づきでしょうが、この式は観察値と期待値の“ずれ”を集計することで帰無仮説を検証するとになります。すなわち、この値が大きいほど帰無仮説から乖離しているわけです。さっそく式に観察値と期待値を挿入すると、 χ^2 値は

$$((84-114.2)^2 \div 114.2) + ((122-91.8)^2 \div 91.8) + ((556-525.8)^2 \div 525.8) + ((392-422.2)^2 \div 422.2) = 21.88 \text{ となりました。}$$

次に、「 χ^2 分布表」と照合して、この数値が生じる確率を調べなければなりません。具体的にはまず、「自由度」を求めます。表2は2つの行と2つの列からなるので、自由度＝（行の数－1）×（列の数－1）＝（2－1）×（2－1）＝1です。自由度1の場合、「 χ^2 分布表」では、 χ^2 値が3.84を越えると5%の有意水準（つまり20回に1回も起こらない）、6.63を越えると1%の有意水準（100回に1回も起こらない）で「確率的に起こりにくい」現象であると判断されます³。21.88という値はこれらの数値をはるかに超えており、「男女の差はない」という帰無仮説は棄却されます。したがって、男女間に遺伝子組み換え食品への不安に有意な差が認められるという結論になります（図5）。

ちなみに、表1の結果を同様に計算すると、自由度は（4－1）×（2－1）＝3で、 χ^2 値は0.9654にとどまり、やはり男女間には有意な差は認められませんでした。

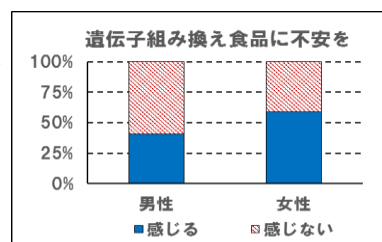


図5 遺伝子組換え食品への不安に見られる男女差

仮説と解釈について

このように質問票の作成は、「分析方法の決定」と「質問文の作成」が並行しておこなう必要があります。これがうまくいかないと、せっかくデータを集めても、数値の意味を汲み取れず、主観的な仮説を押しつけるだけに終わってしまうかもしれません。あるいは、先生や先輩に「アンケートしたのですが、分析法がわかりません」と悲しい質問をしなければならなくなります。

とくに難しいのは「統計結果から何を導き出すか？」ということです。その意味からも、単純集計だけでは現象の全体像はなかなかつかめません。クロス集計等を身に付けて下さい（Chapter 6参照）。

さらに注意すべきことは、集計結果が（事前に考えていた）“仮説”とあわなくても、「失敗した！」と**すべてを否定的に考えない**ことです。その結果は失敗というよりも、想定していなかった新しい発見が隠れていることを示唆しているのかもしれません。むしろ初心にたちかえり、現象の全体像をとらえ直すよう努力すべきです。「失敗した」と落胆し、さらなる努力を放棄しないようにお願いします。

引用文献・資料

平石賢二（1990）「青年期における自己意識の構造：自己確立感と自己拡散感からみた心理学的健康」『教育心理学研究』38（3）：320-329。

泉博子（2005）『思春期から青年期にかけての友人関係：友人が悩みの解決に果たす役割』関西学院大学総合政策学部卒業論文。

関西学院大学総合政策学部編（2012）『基礎演習ハンドブック』関西学院大学出版会。

東京都消費者月間実行委員会（2014）『食の安全に関する消費者意識と消費行動調査報告書』
<http://kurashifesta-tokyo.org/2013/special/pdf/chosahokoku.pdf>。

2016年12月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

³ 本来は、有意水準5%、1%とは、データをとる前に決めておくべき数値です。

課題研究ハンドブック Chapter 5（試作版）

～フィールドワークについて～

フィールドワークとは何か？

最近、“フィールドワーク”という言葉をよく耳にします。しかし、具体的にはどんなことをするのか？ 高校生の皆さんには、いま一つわかりにくいかもしれません。広辞苑第5版では「野外あるいは実験室での探訪・採集。野外研究。実施調査」と書いてありますが、これだけでは意味が広すぎて、よくわかりませんね。このように、なかなか具体的に定義しにくい言葉なのです。

他者との対話：問いかけとその答えから、自他を理解する

実際、「フィールドワークをどうすすめたら良いか、わからない」、あるいは「リサーチの結果をどうまとめようか、わからない」等の質問は珍しくないそうです。佐藤郁哉（2002）の『フィールドワークの技法』をひもとくと、「昔から何度も指摘されているように、フィールドワークについていわゆる「クックブック」風のマニュアルをつくることはほとんど不可能です。というのも、いくつかの定石やルールを杓子定規にあてはめることほど、現地調査がもつ本来の性格から遠いことはないからです」と明記されています。つまり、誰でも使えるマニュアルはない、のです。

それでは、手がかりがまったくないのか、というわけではありません。『フィールドワークの技法』には、フィールドワークには“ストーリー”が必要であること、リサーチでは“問題設定”（取材相手への“問い”）が重要で、その問題に関する“仮説”（仮の答え＝理論や知識をもとにした予想回答）を立て、“相手からの答”（現実の回答）と照らし合わせる。こうした“ちぐはぐ”なやり取りを経て、“ストーリー”が適宜修整され、やがて納得＝あなた自身の結論に達する過程であることが、諄々に説かれています（Chapter 1 も参照）。

つまり、フィールドワークとはクックブックのような教科書を離れ、見知らぬ他者と出会い、とまどいながらも対話することで、相手を理解すると同時にあなた自身も変わっていく過程なのです。

どうしたらフィールドで仮説を立てられるか？

～仮説は一つだけではない～

どうやってフィールドリサーチが始まるか？ アメリカ資本主義社会の小話を一つ紹介しましょう。

靴の会社のセールスマンが途上国に赴く。現地では、みんな裸足で歩いている。A社の社員は即座に本社に「みんな裸足なので、商売にならない」と打電した。一方、B社の社員は「素晴らしいマーケットだ！ みんな裸足だから、全員が靴を買えばすごい売り上げだ」と打電した。どちらが正しい資本主義者か？

まず、セールスマンたちもまたフィールドワーカーであると考えて下さい。そして、「みんな裸足だ」がフィールドリサーチで目にした**事実**であること、そして、「**商売にならない／素晴らしいマーケットだ**」はその事実に基づいて彼らがたてた**仮説**と考えて下さい。ここで肝心なのは、「みんな裸足だ」という**事実**は**一つ**なのに、そこから**導かれる仮説は複数**である点です。冷静になれば、第3の解釈=仮説も考えることができます。例えば、C社は「巨大なマーケットに育つかもしいが、現在の経済状況では、彼らに靴を買う余裕がない。マーケットは潜在的なものに過ぎず、将来の可能性を考えてモニタリングを続けるべきだ」と結論するかもしれません。

こうして一つの“事実”から浮かび上がるいくつかの“解釈=仮説”を**仮説群**としましょう。このようにフィールドワークでは、文献や理論をベースにした“仮説”もありますが、眼前の事実私た

ちが下す解釈、そして“見通し”程度のものも含まれます（佐藤、1992）。

さて、事実に基づいているけれど、互いに相反するこれらの仮説（**代替仮説**と呼ばれます）のどれが正しいのか、あるいはすべて間違いか？ 確認のために現地の人たちにインタビューやアンケート調査で意見をきく。その結果、一つの結論に達する。これがフィールドリサーチの基本型です。

同じものを見ても、見たいものが違えば・・・

それからもう一つ付け加しましょう。増田ほか（2015）は、「**同じものを見ている、見たいものが違えば、見方も変わってくる**」と強調しています。

先ほどの小話に戻れば、靴のセールスマンは“**裸足**”に眼をやりますが、衣装の研究者なら、彼らがまとっている**衣類**やその**素材**、**デザイン**に注目するでしょう。建築家ならば、人々よりも、背後の**建物**や**まち**の様子が気になるかもしれません。

つまり、隣の人はあなたと同じものを見ていたとしても、見たいものが違えば、異なる景色が見えてくるのです。そのためにも、Chapter 2で紹介したKJ法などが用いられているのです。

ゲーテ、フィールドワーカーとしての理想像？

それでは、フィールドワーカーとしてどんな姿勢で臨むのが良いのでしょうか？ 18～19世紀のドイツの文豪で、自然科学にも関心が高かったゲーテは、20ヵ月にもわたるイタリアへの旅行を記録した『イタリア紀行』で、ローマへの途次にあるボーツェンの町で以下のように書きつけます。

ボーツェンの歳の市では絹物の売行がよく、羅紗類も市に出される。（略）私はここで全部まとめて見られる産物をすっかり調べてみたくてならなかったが、（略）統計ばやりの当今では、（略）ものの本によって調べることもできると思えば、気が休まるというものだ。しかし、現在の私としては、本でも絵でも与えてくれない感覚的印象が大事なのだ。肝要なことは（略）自分の観察力を試験し、自分の学問や知識がどの程度のものであるか、自分の眼が明澄純粹であるのか、どのくらいのことを自分は束の間につかみうるか、自分の身上に刻印されたしわを元通り消し去りうるか否かを吟味することである（ゲーテ、1960；一部省略）。

この一節こそ、フィールドワーカーがとるべき姿勢をもっともよく表したもののかもしれません。なじみのない土地に行き、見知らぬものを見て、自らの観察力と感性を確かめ、自らの先入観を消し去る。こうした姿勢は、高校や大学を卒業して社会で働く時にこそ、重要なものになるはずです。

フィールドとは何処か？ ～見るものすべてがフィールド！～

さて、フィールドとはどこでしょうか？ 実は、あなたの眼にはいるものすべてがフィールドかもしれません。例えば、高校への通学途中、駅や電車で無数の**広告**を見るはずで、さらに、本来は広告が飾られるべき場所なのに、広告がなく、枠だけがあることに気付いたりします。

どんな広告があるでしょう？ 例えば、ある駅には病院と塾・予備校の広告がたくさんあります。そこはニュータウンかもしれません。また、別の駅では広告が飾っていない枠だけが並んでいる、それは不景気のバロメーターかもしれません。あるいは、京都線や神戸線等の一つの路線で各駅、あるいは各電車内にどんな広告が掲示されているか、比較するのも興味深いかもしれません。かつて早稲田大学教授だった今和次郎は“考古学”をもじった“考現学”を主唱、街をいく人たちの衣装や髪型、履物、帽子等々、様々な社会風俗を組織的に調査しましたが、これも立派なフィールドワークです。

その一方で、事前にきちんと調査計画をたて、文献調査もおこなうことも重要です。そして、フィールドにでかけて、インタビュー／ヒアリング（Chapter 4）やアンケート調査（Chapter 5）を実施、そこに公刊データ（Chapter 4）もまじえて、レポートのアウトラインを整えていきます。その上で、もっと重要なことは、フィールドでリサーチの対象とされた方々との“対話”がなりたっているかどうか、にほかなりません。

フィールドワークの“レシピ”

クックブックのようなものは存在しないと言っておきながら、高校生の方にはやはりレシピが必要でしょう。表1は、リサーチでの手順について佐藤（2002）による表を改編したものです。

表1. リサーチの段階にそった問い、答え、レポート作成の対応関係（佐藤、2002の表6・1Aを改編）

段階	問い（問題設定）	データ収集・分析	仮説の段階	レポート
計画・予備	初めの問題関心	探索的な収集・分析	予想・見通し	大まかで仮のアウトライン
中間	リサーチクエスト作成	焦点を絞って収集・分析	仮説群	アウトラインの改訂
最終	最終的な問題設定	補足的な収集・分析	結論群	アウトライン確定・完成

Chapter2を振り返ると、「**テーマを絞る**」という作業はこの「問い（問題設定）」の列に該当するかもしれません。初めに抱いていた関心は、事実を知るにつれて具体的なリサーチクエストに変わり、最終的に「問題意識」として絞られます。（現場を知らない段階での）予想は（現場を知った上での）作業仮説群となり、最終的に結論群に絞られます。これがChapter2の「**アウトラインを考える**」につながり、やがてレポートのアウトラインに結晶していくのが一つの理想かもしれません。

それでは、この表を参照にしながら、以下、まとめていきたいと思います。

（1）リサーチ・デザインを考える

- ①表1では計画・予備段階です。初めの問題関心に基づき、テーマの素案を考え、ふさわしいフィールド・研究対象の人々などを想定します。同時に、指導の先生からアドバイスをいただいたり、文献を紹介してもらいます。データ収集としては手探りに近い“探索”的な収集・分析になります。
- ②次に、アドバイスや文献サーベイから、予想・見通しをたてます。レポートならば、大まかな仮のアウトラインになります。この際にも先生方からのアドバイスをいただきましょう。
- ③とくに**予備調査**を実施、その際にインタビュー・ヒアリングする場合は、テーマの素案にあわせて、入念に質問を準備して下さい。予想もしない回答が返ってきて、とまどうこともしばしばです。

（2）予備調査

- ④予備調査実施：理想的なフィールドワークは（i）予備調査、（ii）本調査、（iii）補足（再）調査の3段階からなります。もし余裕があれば、ぜひ予備調査を実施して下さい。
- ⑤予備調査での観察のまとめ：観察結果や見通しをまとめるのに役立つのが、Chapter2の5頁で紹介した**KJ法**です。一人で調査した場合でも、自分の観察結果の整理に、そして複数メンバーによる予備調査では全体像を把握し、本調査に備えるために、活用して下さい。

（3）本調査

- ⑥本調査の準備：予備調査を受けて、本調査のリサーチ・デザインをあらためて考えます。とくに、浮かび上がった仮説群を意識して、リサーチの焦点を絞ります。
- ⑦**本調査**：本番です。予備調査で浮かび上がった見通しにもとづき、焦点を絞ってデータを収集・分析します。量的データの場合は、統計による分析がよく使われます。
- ⑧本調査をまとめます。仮説群はデータによって検討され、調査の結論が見えてきます。レポートのアウトラインもおのずから整ってくるはずで。

（4）補足（再）調査

- ⑨余裕があれば、ぜひ**補足調査**をして下さい。⑧の本調査のまとめで新たな疑問が出ることや、資料の不足を感じることも珍しくありません。また、再調査では本調査と異なる結果になることもあります。そんな場合でも慌てず、異なる結果が出た理由を考えれば、また別の世界が分かってきます。

⑩**文献調査**も再度必要になってくる場合もあります。すなわち、フィールドの過去にも眼を向けなければいけなくなった場合です。ここまで説明してきたフィールドワークは、ある意味、“現在”を切り取る作業と言えるでしょう。その一方で、その“現在”は“過去”を経ているわけです。さらに“未来”にもつなげるためには、そこまで見通した文献・資料があるかも気になってくるのです。

(5) 定点観察

定点観察とは、同じ場所（定点）から対象を継続的に観察することで、時間的な経緯を踏まえて、過去との差異を分析することです。この方法によって、それまで見逃してきた巨視的な変化を抑えることができます。例えば、毎年、同じ場所を同じ視点ですっと記録をとっていく。そうすると、短期的な視点では見落としていた色々な変化が見えてくるのです。

例えば、商店街の変遷、ニュータウンの高齢化、微環境の変化等は、1年かぎりのリサーチではわずからず、高校等では先輩から後輩へ、年度を越えて観察を継続していくことで明らかになります。

究極のフィールドワーク：参与観察の例

最後に、現地の人たちの生活に溶け込む参与観察＝フィールド調査について、20世紀最大の人類学者の一人、C・レヴィ＝ストロースの『悲しき南回帰線』を少し紹介しましょう。彼は1934年のパリで「ブラジルでの民族学調査」への参加を持ちかけられます。しかし、現地で直面したのは、先住民に会いたければさらに南米の奥深く、僻地“ロンドニア”に出かけねばならないという事実でした。故国フランスから地球を半周ほども旅した荒野で、彼は裸で生活するナムピクワラの人たちについて、こう書き記します。

「生活の無一物状態はほとんど信じがたいほどだった。男女ともに一物も身にまとっていない」「夜明けとともに起きて、火をもやし、何はともあれ夜なかの寒さに冷えた体を暖め、それから前夜の残り物で軽く食事をする」「(一日の終わりに)明るく輝きはじめたなつかしい火のまわりに、家族の集まりができる。夕べの集まりは、話や歌や踊りのうちに過ぎていく。ときには、これらの楽しみが夜遅くまでつづくことがあるが、たいていはすこしばかり痴話げんかや友だち同士の争いがあったあとで、夫婦はしっかりと抱き合い、母親たちは眠っている子を抱きしめ、あたりは静寂に還り、寒い夜はタキギのはぜる音と、タキギをくべる者の足音と、犬の吠え声、子供の泣き声に、ときおり生気をとりもどすだけだ」

このフィールドワークは10年の熟成を経て構造主義¹人類学の幕開けとなる『親族の基本構造』に、さらに6年を経て畢生の傑作『悲しき南回帰線』に結実します。そのレヴィ＝ストロース自身は、18世紀の思想家J・J・ルソーこそ「自分以外の人間を知ることにより自分を知らうとした最初の人間である」＝人類学の始祖と称えています。このように“自己”と“他者”を比べるうちに“自己”を理解する業こそがフィールドワークの神髄なのです。

引用文献

増田研・梶丸岳・椎野若菜編（2015）『フィールドの見方』古今書院。

新村出編（1998）『広辞苑第5版』岩波書店。

佐藤郁哉（1992）『フィールドワーク』新曜社。

佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社。

2016年12月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

¹ 構造主義：人々が明確に自覚していないけれども、社会や文化の根底にあって様々な現象を引き起こす“構造／システム”を分析することで、社会現象や文化現象を理解しようとする分析方法です。

課題研究ハンドブック Chapter 6（試作版）

～統計と統計学～

このシリーズには時折“統計”という言葉が出てきます。「集団における個々の要素の分布を調べ、その集団の傾向・性質などを数量的に統一的に明らかにすること。また、その結果として得られた数値」ですが（『広辞苑』）、高校生の皆さんにはなじみ薄いかもしれません。そもそも、統計とはどんな理由で生まれたのか？ そのあたりから簡単に紹介しましょう。

統計の歴史

源流 1：徴税や徴兵のベース

統計の源流の一つは、きわめて政治的なもの、すなわち、国家による**徴税**や**徴兵**の基礎データの集積でした。例えば、中世イングランドでは 1086 年にノルマン朝が土地台帳（Domesday Book；図 1）を作成、相続や土地争いの際の参考にされました。日本では徴税や徴兵に戸籍が使われましたが、最古の戸籍はおよそ 1200 年前です。

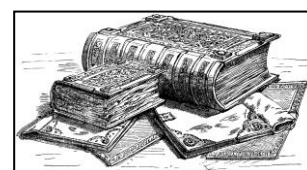


図 1. The Domesday Book from “Historic Byways and Highways of Old England” (Andrews, 1900) @Wikipedia。

こうして、最初は権力者が“統計”を握っていたわけです。しかし、現代では、巨大企業がデータ集積を把握する状態になりつつあるようです。

源流 2：大量なデータを処理、政策・ビジネスに役立てる

近年、Web で膨大なデータをリアルタイムで集積・分析するビッグデータが注目されています。この先駆けは 16 世紀の『**死亡週報**（Bills of mortality）』かもしれません。毎週ロンドンにおける死亡者数と死因を記録したもので、1662 年、社会統計の萌芽である「**政治算術**¹」の先駆者 J・グラントが分析します。これが刻々集計されるデータを分析、政策に活かそうとする最初の試みです。数年後、ロンドンにペストが流行すると、『死亡週報』を購入している富裕層はいち早く察知、逃げ出します。一方、取り残された貧困層に多くの死者が出ます。

また、データ分析からビジネスが誕生した例に**生命保険**があげられます。従来、様々な人たちが葬式費用等をまかなうため組合を作りました。しかし、掛け金の計算がうまくいかず、挫折します。誰が何時死ぬか、把握しないと年齢ごとの掛け金が計算できないのです。この問題の突破口（**ブレイクスルー**）は、天文学者の E・ハレーがドイツの一都市の人口データから死亡表（現在の**生命表**）を作ったことでした。死亡表から年齢層ごとの平均余命を割り出し、掛け金を計算することができました。こうして最初の生命保険会社が 1762 年に設立されます。

源流 3：確率を考える

統計の源流の 3 つめは**確率**です。これも有名な話ですが、ある日、賭博師から相談を受けた哲学者のパスカルが数学者のフェルマーと書簡を交わしながら解いたのがきっかけの一つです。

なお、相談の一つは「**1 つのサイコロを 4 回投げる。1 回でも 6 が出た場合は勝ち**」という賭けに挑戦すると、**勝つことができた**。しかし、「**2 つのサイコロを 24 回投げる。そこで 6 のゾロ目（6 と 6）が 1 回でも出た場合は勝ち**」という賭けでは、「**同じ確率から、勝てるだろう**」と思ったのに、**勝てなくなった**。これは何故か？」です。数学が得意の方は考えてみましょう。

¹ “Political Arithmetic” の略、17 世紀頃に社会現象を統計的に分析、将来を予想しようとしています。

統計学とは何か？

統計学は大きく 2 つの分野、(1) 対象集団を調べ、規則性・法則性を見出す“**記述統計**”と、(2) 対象集団(母集団)のデータの一部をサンプル(標本)として抽出、規則性・法則性を見出す“**推測統計**”に分かれます。推測統計とは製品の不良品の抜き取り検査が典型です(全製品をチェックできないので、一部の製品を調べて不良品率を推測)。ここでは皆さんにとってなじみがありそうな事例で、記述統計を紹介しましょう(関西学院大学総合政策学部、2012)。

成績について“記述統計”してみよう

高等学校の3年生 40 名を対象に、以下の質問を実施した上で、英語や数学、社会の得点を調べたとします。

質問 1：英語は得意ですか、不得意ですか？

質問 2：数学は得意ですか、不得意ですか？

質問 3：一週間の勉強時間(分)を答えて下さい。

図2はデータシートのイメージです。この数値データを統計ソフト等によって集計します。そして、グループごとにデータ数をまとめた結果を「**度数**」または「**頻度**」と呼び、度数分布表を作ります(表1)。

番号	組	氏名	性別	質問1	質問2	質問3	英語	数学	社会
1	1	上田	男	得意	得意	180	62	31	..
2	1	島飼	女	不得意	不得意	231	50	71	..
3	1	小沢	女	不得意	得意	151	78	55	..
4	1	永沢	男	不得意	不得意	145	58	28	..
5	1	山脇	男	得意	得意	221	51	74	..
6	1	岡村	男	得意	得意	164	73	55	..
7	1	小西	女	得意	不得意	108	50	31	..
8	1	細川	女	不得意	得意	109	46	25	..
9	1	山本	男	不得意	不得意	131	59	25	..
10	1	土肥	男	得意	得意	156	51	39	..
..	..	..	..	..	..	..	..	..	..

図2. データシートの例

次に、この度数を縦軸にして**ヒストグラム(度数分布図)**を描きましょう。英語は左右対称のいわゆる**正規分布型**に分布しますが(図3a)、社会は「**右裾が長い分布**」になります。高校生の皆さんも、こうやってデータの全体像をつかむことが統計学の第一歩であることを是非覚えて下さい。

表1. 度数分布表の例

度数分布表の一例：1組の英語の得点分布					
階級	階級値	度数(頻度)	累積度数	相対度数	累積相対度数
31-40点	35	2	2	5.00%	5.00%
41-50点	45	10	12	25.00%	30.00%
51-60点	55	14	26	35.00%	65.00%
61-70点	65	10	36	25.00%	90.00%
71-80点	75	4	40	10.00%	100.00%
計		40			
階級:	データを分類するグループ				
階級値:	階級を代表する値。一般に(階級の上限值+階級の下限值)/2				
度数(頻度):	その階級に含まれるデータ数				
累積度数:	度数を下の階級から積み上げた値				
相対度数:	その階級の度数÷データ総数				
累積相対度数:	相対度数を下の階級から積み上げた値				

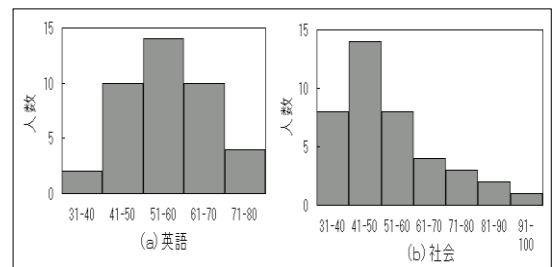


図3. (a) 英語と (b) 社会の点数分布

基本統計量とは？

次に、「**基本統計量**」としてよく使われる数値を説明しましょう。

(1) **代表値**：比較の際、分布を代表する値で、主に次の3種類があります。

①**平均値 (Mean)**

②**中央値 (Median)**：中位数、メジアンとも呼び、データを大小順に並べた時の中央の値。

③**最頻値 (Mode)**：モードとも呼び、最も頻繁に現れるデータの値。

ところが、これらの値が一致しないことがあります。例えば、10人の学生に1週間の勉強時間を尋ねたところ、表2の分布例1になったとします。平均は3.3時間、中央値は1.5時間、最頻値は1時間です。

表2. 1週間の勉強時間の分布例

学生10名の勉強時間の分布例1																			
勉強時間																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
度数(人数)	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
学生10名の勉強時間の分布例2																			
勉強時間																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
度数(人数)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	3	0	0	0	0	0	0

このうちどれが代表値としてふさわしいのでしょうか？ これを判断するためには、ヒストグラムによる分布形からの判断が必要です(図4 a)。その結果、平均 3.3 は、20 という他の値から飛び離れた値(＝「はずれ値」)に影響された結果だとわかります。

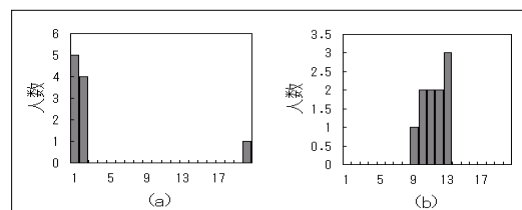


図4. 1週間の勉強時間の分布形

この場合、中位数(1.5)や、最頻値(1)の方が代表値としてふさわしいのです。では、表2の分布例2では？ この場合、平均 12.4、中位数 11.5、最頻値 13 です(図4 b)。12.4 や 13 は分布を代表するには大きすぎ、中位数の 11.5 がふさわしいようです。

表3. 3つのデータセット

3つのデータセット(東京大学教養学部統計学教室編、1991、p35)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A	1	0	0	2	0	4	0	2	0	0	1
B	1	1	1	1	0	2	0	1	1	1	1
C	0	0	0	1	2	4	2	1	0	0	0

(2) **データの散らばり具合**：図4で明らかなように、データの分布を判断する場合、平均も大事ですが、むしろ散らばり具合が重要です。表3のデータセットを見て下さい。A、B、Cとも平均値、中央値、最頻値はすべて

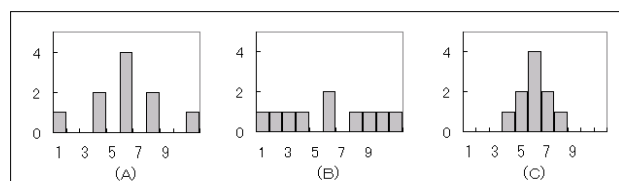


図5. 表3のデータの分布形

5ですが、ヒストグラムの形はかなり異なります(図5)このような時、代表値だけではデータの分布を表現しきれないのです。

(3) **散らばりの尺度**：こうして、データの分布を見る際に重要になってくるのが、「データの散らばり具合」を表す指標です。これには、ふつう以下の二つの値が利用されます。

①**分散 (variance)**：平均からの乖離の二乗の平均

②**標準偏差 (standard deviation)**：分散の平方根S

「分散」の計算式を式1に示します。この二つは、後述する「データの標準化」で用いる重要な概念です。統計では、こんな風に計算しているのだ、と覚えておいて下さい。

式1. 分散の方程式(教科書によって右の式を使うこともあります)

$$S^2 = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n}, \quad S^2 = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n-1}$$

簡単な統計の例について

ここで、皆さんにも関心があるかもしれないテーマを2つとりあげましょう。1つはデータの間の相関です。そして、もう一つはデータの標準化、すなわち偏差値です。

散布図と相関～二次元量的データの記述～

さて、2種類のデータの関係として、図2に戻って「勉強時間が長いほど、点数は高い？」という課題を取り上げましょう。興味をおぼえる方もいらっしゃるでしょう。

まず、データの全体像を把握するため、図2にでている10名分のデータから、勉強時間と得点を二次元の平面上にプロットし、全体像を把握する**散布図**を作ります。エクセル等のグラフ機能を使えば簡単です。それが図6です。英語の得点と勉強時間は関係が薄そうですが、数学では勉強時間と関係がありそうです。しかし、これはたんなる印象に過ぎません。

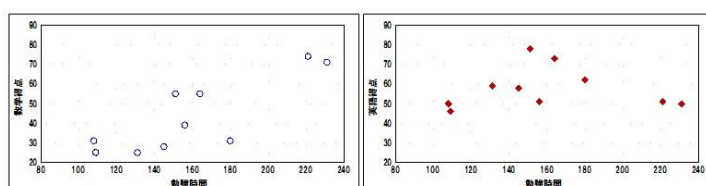


図6. 数学(左)と英語(右)の得点と勉強時間

式2. 相関係数の式

$$r = \frac{\sum (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sqrt{\sum (x_i - \bar{x})^2} \sqrt{\sum (y_i - \bar{y})^2}}$$

そこで、二つのデータの関係を数値的に表す指標＝「**相関係数**」が登場します。計算式を式2に示しますが、こちらも記憶しておくくと後々便利です。なお相関係数は r で示されます。

図2の10人の資料で計算してみましょう。勉強時間は平均159.6分(標準偏差41.7分)、英語57.8点(10.6点)、数学43.4点(18.9点)です。相関係数は、英語が $r=-0.0022$ 、数学が0.8307です。相関係数は+1から-1までの値を示しますが、以下の特徴があります。

- ①相関係数がプラスの値の場合は、勉強時間と得点は**正の相関**(完全に相関すると+1)
- ②相関係数が0に近いと、勉強時間と得点は**無関係**
- ③相関係数はマイナスの値は、勉強時間と得点は**逆相関**(完全に逆相関すると-1)

図7は図6の2つの散布図をあわせて、かつ、回帰直線を付け加えたものです。この図から明らかなように、勉強時間が多いと数学の得点が高い(正の相関がある)のに対して、英語の得点は勉強時間とほとんど無関係という結果になりました。

もっとも、相関は「二つの資料の関係が深そうだ」を意味するだけです。因果(原因と結果)関係を証明しているわけではありません。つまり、「勉強時間が長いと数学の得点が高い」のか、「数学の得点が高い人はたくさん勉強する」のどちらかは不明です。

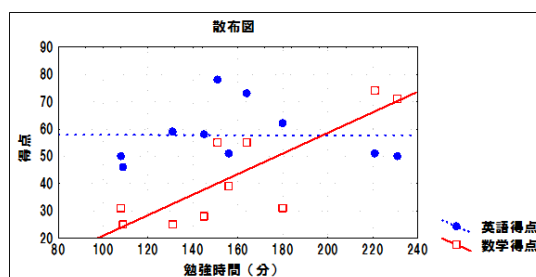


図7 英語と数学の比較

データの標準化～二つの量的データを比較する方法～

最後に、平均や分散が異なる2つのデータを比較する方法も説明しましょう。実は、これが「**偏差値**」の基礎です。上の10人の例に戻り、このうちの一人、英語73点、数学55点の生徒さんが「1科目で大学受験をする場合、どちらで受験するのが有利か？」を考えます。

まず、2つのデータの「標準化」が必要です。そこで、

- (1) 平均点の違いの影響を取り除くため、まず、この方の得点から平均点を差し引きます。
 - ・英語： $73 - 57.8 = 15.2$ 点
 - ・数学： $55 - 43.4 = 11.6$ 点
- (2) 次に、データの散らばり具合を調整します。これが「標準化(正規化・基準化)」です。具体的には上記の値を「標準偏差」で割ります(なお、標準化すると平均は0、分散は1にそろいます)。英語と数学の得点の標準偏差は10.6と18.9ですから、
 - ・英語： $15.2 \div 10.6 = 1.4337\dots$
 - ・数学： $11.6 \div 18.9 = 0.6137\dots$
- (3) 日本でよく用いられている学力偏差値はこの数値に10をかけてから、50を足すので、
 - ・素点が73だった英語は64.3
 - ・素点が55だった数学は56.1
 したがって、やはり英語で受験した方がよさそうだ、という結果になりました。

引用文献

関西学院大学総合政策学部編(2012)『基礎演習ハンドブック』関西学院大学出版会。
 新村出編(1998)『広辞苑第5版』岩波書店。

課題研究ハンドブック Chapter 7（試作版）

～文章、引用、グラフ、単位、データなど～

この Chapter では、レポートやプレゼンの準備において気を配らなければいけない、いくつかの注意事項について、『基礎演習ハンドブック』にもとづいてまとめてみました。

レポートやプレゼンでの注意事項

文体について～長い段落、長い文章は禁物です～

レポートもプレゼンも**明晰で論理的**な文章が求められます。そのため、以下の項目に気をつけて下さい。なお、日本語には横書きと縦書きがありますが、ここでは基本的に横書きを想定しています。

1. **主語**：日本語では主語がしばしばあいまいです。しかし、レポート（会社での報告書、企画書、稟議書等も含め）では明確さが要求されます。主語が誰か？ つまり、**私**なのか？ フィールドリサーチでの**インフォーマント** [Chapter3] なのか？ 引用の場合にはその**著者**なのか？ 等々について、読者に明確に伝わるように工夫して下さい。なお、主語を文章の前の方におくと、読者は「**誰がこの文章の主語なのか**」をすぐに理解できます。
2. **段落の構造と長さ、トピックセンテンス**：一つの段落（パラグラフ）は基本的に一つの**トピック**だけを扱います。したがって、複数のトピックを含むような長い段落は、トピックごとに分割して下さい。1 つの段落は **10 行以内**でおさめるのがよいかもしれません。さらに望ましいのは、そのトピックを明示する**トピックセンテンス**を意識することです。英文のトピックセンテンスは**段落の冒頭**（ファースト・センテンス）であることが一般的ですが、これによって読者は「**何が段落のトピックなのか**」すぐに理解できます。
3. **文章（センテンス）の長さ**：一つ一つの文章を**短め**にして下さい。長い文章はしばしば、論理構成があいまいになります。できるだけ短い文章に分割するとともに、主語を明示することで、論理的な文章を心がけて下さい。
4. **文体の統一**：「だ／である」体と「です／ます」体を混在させないで、統一して下さい。「である」に統一するのが、もっとも応用が利くと思います。
5. **読点**：読点の位置に注意して下さい。ミスリードさせたり、頻繁につけすぎたり、逆に少なかりたりしないように注意して下さい。
6. **文末**：文末で**体言止め**や「ー（ダーシ）」、「…（リーダー）」等を使うのは避けて下さい。あいまいな文章はレポートの印象を悪くします。文末は必ず、力強く言い切して下さい。
7. **数字**：横書きの場合、数字は**半角の算用（アラビア）数字に統一**するのがもっとも応用が利くと思います。アルファベットも基本的に半角文字に統一して下さい。
8. **図表等**：表やグラフはそれぞれ該当する個所に見やすい大きさで入れてかまいません。**ナンバリングや説明文（レジェンド／キャプション）**も付け加えてください。引用は**出典を明記**して下さい。

最後に、お書きになった原稿を**音読**されることをお奨めします。つかえたりしたら、それは主語と述語の関係、**句読点**、「**てにをは**」、**接続詞**等にミスがあるのです。

文献の扱い方について～引用～

レポートやプレゼンで文献（書籍や論文、雑誌・新聞記事、政府発表のデータや報告書等）を紹介

する際、「どこからどこまでが他人の意見」で、「どこからどこまでが自分の意見」であるのか、明白に書き分けるなければなりません。そこで注意すべきが「引用」です。きちんと引用しないと、他人の文章を勝手に自分の文章として書いた「盗作」とみなされ、レポート自体が評価されなくなります。逆に、きちんと引用すれば、読者や聞き手は「この発表者は、このあたりの文献まで押さえていて、きちんと勉強しているな」とプラスに評価します。レポートでは、引用のやり方そのものが評価を左右しかねないと言っても過言ではありません。

さて、「引用の方法」は大きく以下の2つに分かれます。

- (1) 文献の文章を**そのまま引用**：1～2行ぐらいならカギカッコでくくることで、引用を表します。長い引用の場合は、前後を1行空けてから、2文字分の余白を空けることもあります。もっとも、このタイプの引用が長すぎると「切り貼りだけだ」とみなされ、評価が低下しかねません。

実例1. あなたが、秋田三郎という人が2000年に出版した本の39頁に記載されている短い文章をそのまま引用する場合、以下の①～③のスタイルが一般的です。

①秋田（2000；39）は「公的介護保険に3つの問題がある」と述べている。

②秋田は「公的介護保険に3つの問題がある」と述べている（秋田、2000；39）。

③介護保険をめぐる、秋田は、以下のように記述している。

公的介護保険は、第1に***、第2に***、第3に***、という3つの問題点を抱えている。これらの問題点の解決には、介護保険をめぐる多様なステークホルダー間の意見調整が必要である（秋田、2000；39）。

- (2) 引用文献の文章を**書き換えて引用**：この場合、本文中にその文章を書いた人の名前、つまり「著者名(出版年；頁)」を示して引用します。

実例2. 文献を自分で「要約」して「言い換える」場合は、④～⑤のように文章を工夫します。

④秋田（2000）は公的介護保険の問題点を3つあげている。1番目は***...

⑤公的介護保険は、第1に***、第2に***、第3に***、という3つの問題点を抱えていると言われている（秋田、2000）。

注について

レポートに「注」を付けるのは、(1) 本文の内容に直接関係のないものや本文中に書くと文章の流れを悪くしてしまうような場合や、(2) 内容をさらに詳しく説明するなど、その事柄について読む人がさらに詳しく知りたい場合等があげられます。

こうした注は、本文中の該当部分にナンバリングして同じ頁の下部に書く「**脚注**」と、レポートの最後、つまり本文と文献表の間に書く「**後注（文末脚注）**」が一般的です¹。ワープロソフトの脚注・後注の機能を使用すると、追加や削除で自動的に番号が通し番号に変わるので便利です（MS社製のWordの場合は「参考資料」→「脚注の挿入」あるいは「文末脚注の挿入」を利用して下さい）。

図表、単位など

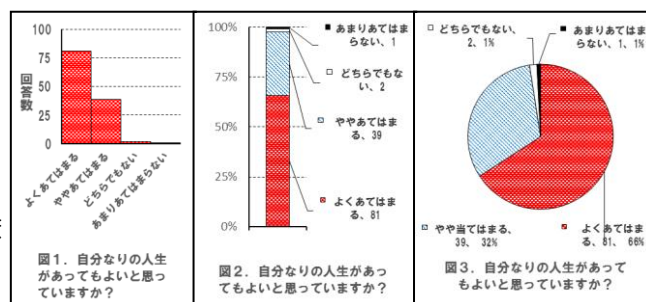
グラフの種類とその適切な扱い方

Chapter 4でも少し説明したように、エクセルや統計ソフトを使うと、一つの統計資料からいくつものグラフができます。一方、レポートやプレゼンテーションでは、そのうちの一つを選ばなければなりません。つまり「**どのグラフを使えばよいか？**」考えなければいけないのです。山本（2005）はグラフ作成の目的を比較、内訳、推移、分布、相関等の表現として、代表的なグラフをあげています。

- (1) **棒グラフ**：各項目の量の比較や表現に適しています（次頁の図1）。とくに度数分布を柱状図と

¹ このほか、文献対照注、割注、簡易注、頭注、傍注があります。

- して表したものをヒストグラムと呼びます。
- (2) **帯グラフ**：全体に対する構成比（内訳）等を把握・比較するのに適しています（図2）。
- (3) **円グラフ**：帯グラフと同様、全体に対する構成比（内訳）等の把握・比較に適しています（図3）。その代わり、細かな量的比較が難しく、数値の表示で情報を補うこともあります。なお、図1～3は、参考のために Chapter 4 の「自分なりの人生があってもいいと思う」という質問への男性・女性をあわせた回答をグラフ化したものです。



一方、折れ線グラフや散布図は以下のように、かなり異なる表現になります。

- (4) **折れ線グラフ**：線がつながって見えるため、値の変化等の推移の表現に適しています（図4）。
- (5) **散布図**：二つの変数の相関等を扱うには、標本の分布状況を表現するのに用います（図5）。

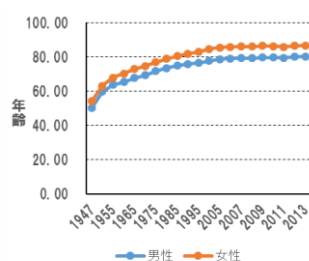


図4 a. 日本人の平均寿命の推移

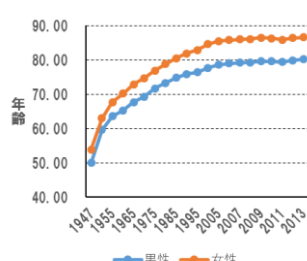


図4 b. 日本人の平均寿命の推移

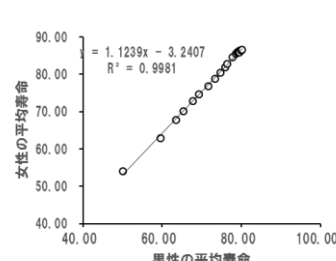


図5. 各年での男性と女性の平均寿命の相関

図4aは日本人の平均寿命の推移ですが、図4bは縦軸を40歳から始めることで変化を強調しました。一方、図5は各年ごとの男性と女性の平均寿命の相関を示す散布図です。図5からは①両性の年齢は高い相関を示すが、②回帰直線の傾きが1より大きく、女性の伸びが大きいことが示唆されます。事実、1947年に3.9年だった男女差は2013年に6.4年に拡大しています。

エクセルや統計ソフトでは、さらに面グラフ、ドーナツグラフ、レーダーチャート等の様々な形式のグラフが使える上に、三次元グラフ等も可能です。したがって、グラフ作成には、把握・表現したい内容に基づき、それにふさわしいグラフを選ばなければなりません（山本、2005）。

グラフ作成ではこのほかにも、**縦軸（Y軸）**と**横軸（X軸）**をどのように決めるか？ 軸の**目盛り**をどうするか（対数グラフや片対数グラフ等もあります）？ グラフの要素をどう並べるか？ グラフの要素の太さや色をどう表現するか？ 等、様々な考慮が必要です。

単位について

レポートで図表やグラフを書くときは、「**単位**」に気を付けねばなりません。とくにグラフではX軸やY軸等が何を単位にしているか、明記して下さい。単位がはっきりしていないと、表もグラフも意味がなくなりますから、注意して下さい（Chapter 4の図1・図2を参照）。もちろん、高校や大学のレポートにとどまらず、ビジネスではどんな単位で計算するか、死活問題です。

(1) 国際単位系（International System of Units, S I）

“単位”は“**約束ごと**”として、時代や社会、国、分野等で異なりました。古来、“度量衡”を統一するのは政治的権力の象徴の一つでもありました（例えば、秦の始皇帝の“度量衡”、豊臣秀吉の“太閤検地”、フランス革命での“メートル法”、etc.）。

しかし、グローバル化が進む現在は“**国際単位系（S I）**”を使うのが一つの目安です。S Iとは

十進法をベースに MKS 単位系（長さはメートル [m]、質量はキログラム [kg]、時間は秒 [s]）を拡張したもので、1960 年に国際度量衡総会で採択されました。この単位系では、例えば、電流はアンペア (A) を、温度はケルビン (K；絶対温度) 等を使います。

(2) 慣習(伝統的)単位系

日本の尺貫法や英米等で日常的なヤード・ポンド法（1 ヤードは約 91cm＝3 フィート [0.3048m]、1 ポンドは約 453.6gr）等です。米国製の飛行機では、速度をマイル（1760 ヤード＝約 1609m）、高度をフィートで表します。一方、船の速度等ではノット（約 1852m）が使われます。

容積では、例えばドラム缶はほぼ 200L、一斗缶は約 18L です。また、一石は約 180L で、同時に 10 斗＝100 升＝1000 合です。江戸時代の米の消費量として、一合を一食分とみなすと、一石はほぼ一人の人間が年間に消費する米の量に相当しました。つまり、石高で人口支持力のある程度判断できるのです。なお、一俵は明治末に 4 斗と定められ、米 72L＝60kg となります。

特殊な単位にはカラット（宝石、約 0.2gr）、オンス（香水等の容積としては英国で 28.41ml、米国で 29.57ml、重さとしては約 28.4gr、ただし貴金属を測るトロイオンスは約 31.1gr）、あるいはバーレル（原油、42 アメリカ・ガロン＝約 158.99L）等があります。

このように、レポートやプレゼンに使う単位についても、きちんとイメージを持ってデータを見ることが大事です。

データについて

最後に、調査で集めたデータの種類について、分析手法も含め、認識しておいた方がよいでしょう。

(1) 量的データか、質的データか？

- ①量的データ：身長・体重・生産量・GDP などの数値データ
- ②質的データ：天気、学歴、出身地、聞き取り調査などの非数値データ

アンケート調査でも、数値データと非数値データが入り混じります。例えば、性別ごとに身長を分析する場合は、男性・女性という質的データにもとづいて、身長という数値データを比較します。一方、当たり前のことですが、インタビューやヒアリングは質的・非数値データです。

(2) 1 変量(次元)データか、多変量(次元)データか？：とくに統計で意識しますが、例えば、

- ①1 変量データ：身長のみ
- ②2 変量データ：身長と体重
- ③3 変量データ：身長と体重と年齢
- ④4 変量データあるいはそれ以上：身長と体重と年齢と性別.....

(3) 時系列データか、横断面データか？

- ①**時系列**データ：1970～年までの日本の人口（一つの現象を時間を追ってたどった資料）
- ②**横断面**データ：2000 年における 47 都道府県データ（ある時点での複数の対資料の比較）
- ③横断面データが時系列的に集められたもの：**パネルデータ**、あるいは**プーリングデータ**

データがどんな時間軸で集計されたかを意識すると、社会現象の多様な側面が浮かんできます。

引用文献

関西学院大学総合政策学部編（2012）『基礎演習ハンドブック』関西学院大学出版会。

2016 年 12 月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

課題研究ハンドブック Chapter 8（試作版）

～プレゼンテーションについて～

この Chapter のテーマは、リサーチの成果の**プレゼンテーション**です。以下、『基礎演習ハンドブック』（関西学院大学総合政策学部、2012）等を参考に、プレゼンでの心構えや注意事項、守るべきポイントなどを説明し、初心者が起こしがちな誤りとその防ぎ方を紹介しましょう。

近年、①PowerPoint 等を用いた**口頭発表**、②大判のポスター等による**ポスター発表**、③**ワークショップ**、**ラウンドテーブル**、**シンポジウム**等のプレゼンテーションが、高校でもふつうになりました。社会に出れば、口頭発表は新商品等の発表会、ポスター発表は見本市のブース、ワークショップ等は企画会議や合意形成をめざした様々な交渉等につながります。ですから、高校でプレゼンのスキルとスタイルを身に付けることは、皆さんの将来の仕事への第一歩と言えるかもしれません。

プレゼンテーションの心構え

ポイント 1：プレゼンテーションはコミュニケーションである

まず、もっとも大事なポイントは、「**プレゼンとはコミュニケーションである**」ことです。プレゼンを一方的な「発表」と思い込み、「とにかく人前で話したら終わり」あるいは「用意した原稿を読み上げればよい」等は感心できない、ということになります。

例えば（社会に出てから）自分の仕事でプレゼンするとします。あなたが 200 人の聞き手に「何を言いたいかわからない話」を 10 分間まくし立てたら、あなた個人にとっては無駄にした時間は 10 分間ですが、聞き手側を合計すると $200 \text{ 人} \times 10 \text{ 分} = 2000 \text{ 分}$ 、延べ 30 時間以上が無駄になっています。こうした無駄な時間を作らないため、プレゼンターは十分に準備を整えて下さい。

プレゼンテーションのための確認事項

ポイント 2：プレゼンテーションの目的と聞き手の確認

プレゼンには準備が必要です。まず、自分自身で「**プレゼンの目的**」を把握すること、そしてどんな方が、何人聴くのか？ 聞き手は何に興味があるのか？ 等を把握します。高校生の方なら、先生に話すのか？ 他の生徒さんか？ 他校の生徒さんか？ 保護者も交えてか？ 校外の方か？

「聞き手がどの程度予備知識を持っているか」も意識すべきです。予備知識を前提にできれば、詳細な用語説明は省略できますが、そうでなければ、専門用語を避けたり、最小限の説明で済みます。

ポイント 3：会場や設備の確認

口頭発表会場では PC、プロジェクター、スクリーン、マイクや照明があるか？ 機器の操作、会場の広さと明るさ、聞き手との距離、演台と PC やスクリーンとの位置、レーザーポインタや指示棒の有無等を確認めます。こんな些細なことが、プレゼンの成否を決めることも珍しくありません。

ポスター発表会場では、何よりもポスターを貼るパネルの大きさ（高さ×幅）、位置、パネルの配置などに心を配って下さい。

ポイント 4：報告時間の確認

口頭発表では持ち時間や、質疑にどれだけの時間が含まれているか等を確認します。実は、プレゼンの時間が短いほど、準備と練習に時間がかかります。短時間であれば、準備した内容以外のことをアドリブで考えたり、変更する余裕がないためです。一方、**ポスター発表**では発表時間（ディスカッション・タイム）が指定されますので、それを確認します。

ポイント5：アウトラインの構成

口頭・ポスター発表ともにアウトラインの構成は重要です。とくに「聞き手に話の展開がわかりやすいか？」を常に意識して下さい。以下はChapter 1での**序→結果→考察（議論）**のアウトラインですが、ごく短時間ならば、まず結論を述べてから、余った時間で根拠を説明してもかまいません。

- ①**序**：序の役割は、プレゼンの目的を話すことです。とくに話の起点として、最初の数秒間は非常に重要です。聞き手との一体化を目指し、注意を引きつけ、テーマの重要性を受け入れてもらいます。
- ②**結果**：リサーチの成果を聞き手に理解してもらわなくてはなりません。説得力を持つには、きちんとした根拠を示し、論理的に説得する必要があります。つまり、論理性が重視されます。
- ③**考察（議論）**：結論に至るまでに話した内容から最も重要な点を簡潔にまとめて確認しながら、結論を述べて話を締めくくります。時間に余裕があれば、次に取り組みたい課題にも触れて下さい。

口頭発表のための準備

ポイント6：スライドはメモ代わり、1～2分で1枚を用意

ここからは、口頭発表について、MS社のPowerPoint等の利用を前提に、スライドの作り方や注意点をまとめます。まず、プレゼンでは原稿の棒読みは避けて下さい(**ポイント9**)。その対策として、スライド自体をプレゼンターにとって**メモとして活用**できるように作りこみます。

枚数は「**1～2分あたり1枚**」が目安です。あまり頻繁に変えると、聞き手にとって聞き取りにくい。一方、1枚のスライドで延々と話を続けると、せっきくの視覚情報の有効性が損なわれます。

ポイント7：スライド作成時の注意点

- ①**統一した書式で作成**：スライドデザイン、文字のフォントとフォントサイズや文字色等は統一性を持たせます。強調する対象ごとにテーマカラーを設定して、線や文字の色を統一します。
- ②**1スライド1メッセージ**：1枚のスライドには、一つのメッセージをシンプルに絞り込みます。「各スライドのメッセージが自然に並ばない、話の流れがすっきりとしない」場合は、アウトラインの整理が不十分です。思い切ってアウトラインまで戻り、再度、ストーリーを整理しましょう。
- ③**要点を箇条書き**：基本的にスライドには「文章」を書きません。文章を並べると、聞き手はつい文章に集中して、肝心のスピーチへの注意が散漫になります。これを避けるには、スライドには話の進行にあわせ、重要な**キーワード**を箇条書きに並べるのが良いでしょう。
- ④**フォントサイズと色使い**：フォントサイズは会場後方からも見えるように18～20pt以上にして下さい。**文字と背景のコントラスト**を意識、濃い背景は文字色を淡く、淡い背景は濃くします。

ポイント8：グラフの編集、発表での使い方

短時間で聞き手に理解していただくため、グラフや概念図の活用は欠かせません。また、図表の順番を考えることで、実質的なアウトラインが決まり、より短い時間で発表を準備できます。

- ①**グラフ種類の選択と編集**：グラフには棒、折れ線、円グラフなど様々な種類があります。聞き手があなたの「言いたいこと」を正確に、かつ直感的に理解するようにグラフを作成しましょう。
- ②**軸と軸ラベルの編集**：次に、聞き手が理解できるようにグラフを修整します（次頁の図1、図2）。図1は表計算ソフトのエクセルの標準設定で作成したグラフですが、フォントも小さく、遠目では軸の意味も不明瞭で、何を主張したいか、わかりにくい。それで、図2ではタイトルを追加、フォントサイズやフォントを変更しました。棒グラフの塗りつぶしのテクスチャーも、白黒印刷も使えるように変更、軸には比率、図のタイトル、単位、引用元を追加してあります。
- ③**説明のポイント**：プレゼンでは①**タイトル（図の目的）**、②**軸の説明**、③**図から読み取れることの3点**を、必ずセットにして説明して下さい（なお、グラフ作成についてはChapter 7も参照）。

高校生のための課題研究サポートシリーズ 8

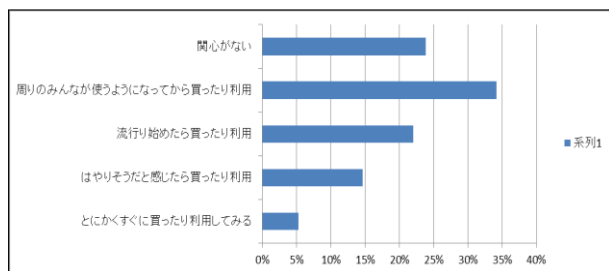


図 1. エクセルの標準設定のまま

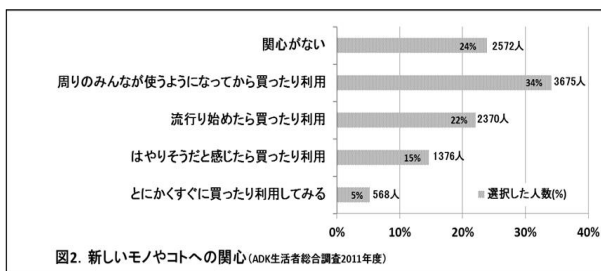


図 2. スライド用に修整

ポイント 9：発表時は発表用原稿を読み上げない

プレゼンターがひたすら原稿を読み上げるだけなら、プレゼンにわざわざ時間を使う必要はありません。聞き手はプレゼンターに「**発表用読み上げ原稿以上の情報**」を期待しています。声の大小やジェスチャー等での強調や質疑等、原稿では伝わらない情報です。発表用原稿を作成しても、そのまま読み上げるのは避けて下さい。とは言え、「丸暗記」が良いわけでもありません。先に触れたように、スライドを発表メモとして、キーワードを繋ぐだけで話すように練習して下さい。

ポイント 10：聞き手との信頼関係とアイコンタクト

プレゼンターにとって、聞き手との**信頼関係**（ラポール rapport）が築けるかどうか、出だしの数秒間にかかっています。口頭発表では、タイトルや司会者への感謝、自己紹介から入ることが一般的ですが、この「**語り出し**」で会場全体を見渡し、聞き手とアイコンタクトをとります。プレゼン中もできるだけ顔をあげ、時々、聴衆をゆっくりと見渡します。これはポスター発表も同様です。

ポイント 11：スライドチェンジの接続詞を決める

プレゼンでは、一つのスライドから次のスライドに移る瞬間が、実は、大事なポイントです。この「**スライドチェンジ**」はテレビの場面転換に相当します。そこで、以下のような接続詞を使います。

- ①方向を変える（例：しかし、しかしながら、一方、さて）
- ②新しいことを付け加える（例：さらに、別に、もう一つ、従って）
- ③ひとつのことをさらに詳しく述べる（例：例えば、ちなみに、もう少し詳しく説明すると）
- ④話を本題からそらす（例：ところで、そういえば、話は変わりますが）
- ⑤新しい話題に移る（例：次に、さて）

ポイント 12：タイミング調整スライドと締めめのスライド

一方、プレゼンが順調に進まず、何かの事情で発表時間が不足することもあります。そのため、

- ①要所ごとに、目印スライドを入れて、大雑把に時間を把握する。
- ②時間不足の際には、省略するスライドを決めておく。

発表の最後は、締めの言葉をいれたスライドか、白紙のスライドを一枚用意します。さらに、締めスライドの後に、想定問答用の予備スライドを用意、質疑での質問に備えるのが良いでしょう。

ポスター発表のための準備

口頭発表が1対多のプロードキャスト型のプレゼンで、質疑時間があっても、一方的に終わりがちなのにに対し、ポスター発表ではデータを前に、少数の聞き手と濃厚なディスカッションを交わします。

学会等ではポスターを会期中展示しながら、1～2時間の発表責任時間（ディスカッション・タイム）が課せられるのがふつうです。それでは、どんな発表が望ましいのでしょうか？

ポイント 13：ポスター発表でのストーリーを組立

1～2時間程度のディスカッション・タイムに多数の方に聞いてもらうため、10～15分を1クールとしてストーリーのアウトラインをまとめます。つまり、10～15分で**ポイント 5**で触れた序から対象・方法、結果、考察の流れを説明します。もちろん、ポスターもこのアウトラインにあわせませす。

ポイント 14：ポスターのレイアウト

ポスターのレイアウトは定型があるわけではなく、アウトラインにあわせて工夫して下さい。図3の(a)は序→結果→考察の順に一段組に、(b)は二段組みに並べました。しかし、プレゼンでもっとも重要な考察等が一番下部に近く、聞き手には読みにくいかもしれません。

一方、(c)は、聞き手が立ったままでもっとも見やすい位置に序と考察が並んでいます。このように様々なレイアウトが考えられますが、レイアウトでプレゼンの印象もまた異なります。

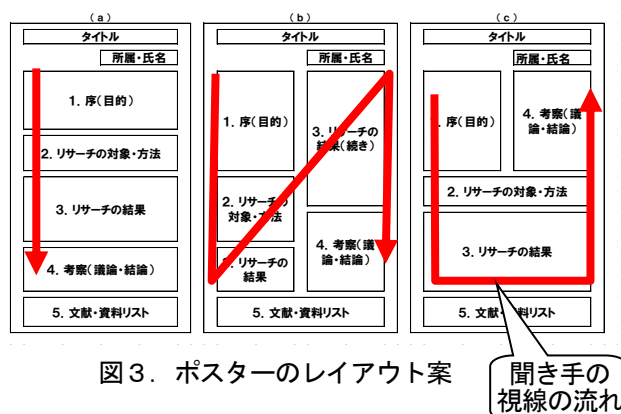


図3. ポスターのレイアウト案

聞き手の視線の流れ

ポイント 15：ポスターの文章

ディスカッション・タイム以外でも、ポスターをみるだけで聴衆が理解できるように工夫して下さい。一方、長い文章を細かな文字で書いたポスターをよく見ますが、たいていは読んでもらえません。

- ①長い文章は避ける → 口頭発表のスライド同様、**箇条書き**がベターです。
- ②**フォントサイズ**も工夫。立った位置から、視線をあまり動かさずに読めるほどの大きさの文字を工夫。
- ③基本的に**ビジュアル優先**、長い文章よりも箇条書きを、表よりもグラフ・図を優先して下さい。
- ④暗い背景で、文字が淡色のポスターは読みにくい場合が多く、かえってイメージを落とします。
- ⑤つまり、基本的に、**聴衆の目線**で作成することが肝心です。

ポイント 16：いかに聞き手をゲットするか？

ポスター発表は、ふつう、司会がいません。プレゼンターは自ら、聞き手を勧誘しなければいけないのです。それどころか、聞き手の数や議論の活発さで“人気のあるなし”が分かってしまいます。

タイトルや要旨で人を引きつけるとともに、通りかかった参加者が関心がありそうなら、積極的に勧誘します。目があったら「発表を聞いていただけますか?」、「私の研究を説明させて下さい」等、声をかけましょう。聞き手が集まると、さらに他の方々を引きつける、それがポスターの醍醐味です。

質疑応答の準備：プレゼンターとして、そして聞き手として

ポイント 17：質疑応答への備え

口頭発表でも、ポスター発表でも質疑は重要です。ポスター発表では、聞き手との質疑応答がむしろ主役と言ってもよいかもしれません。一方、口頭発表でも、コメンテーターや聞き手との質疑がプレゼンの成否を左右します。対応に失敗すると、とたんに発表全体への印象が悪くなったりします。

何より、予想される質問に対する回答を準備して下さい。つまり、想定問答集です。とくに口頭発表では、締めスライドのあとにあらかじめ回答用のスライドを用意しておくのが良いでしょう。

ポイント 18：良い質問をするコツ

さて、高校生の皆さんは、プレゼンターでもあり、かつ、聞き手でもあります。聞き手は良い質問をすることで、プレゼンテーションに貢献できます。ここで、聞き手の側も回答を想定した上で、質問すれば、より建設的で望ましいと思います。良い質疑応答とそれに続く議論がより良いプレゼンの仕上げになるのです。

引用文献

関西学院大学総合政策学部編（2012）『基礎演習ハンドブック』関西学院大学出版会。

2016年12月

編集：関西学院大学総合政策学部・関西学院千里国際高等部

課題研究フィールドスタディ参考文献集

Ⅰ. 方法論

Ⅰ-1. フィールドワークの技法を身に付けよう

1. 佐藤郁哉 (2002) 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』(新曜社、ISBN-13 : 978-4788507883)
2. 佐藤郁哉 (2006) 『フィールドワーク：書を持って街へ出よう (ワードマップ)』(新曜社、ISBN-13 : 978-4788510302)
 1. と2. は、暴走族や演劇を対象としたフィールドワークで有名な社会学者が、社会学、人類学、心理学、経営学等を学ぶ人々を対象に、フィールドワークのエッセンスと具体的方法を紹介します。
3. 井上真編 (2006) 『躍動するフィールドワーク：研究と実践をつなぐ』(世界思想社、ISBN-13 : 978-4790712053)

地域研究、地域開発、環境政策、国際協力など多様なフィールドワークに携わる大学院生や専門家の、現場での葛藤や試行錯誤で挑む等身大の姿が生き生きと描写されている。フィールドワークの厳しさや魅力を新たに気づかせてくれる書である。更に理解を深めるための参考文献や資料も多く掲載されており、学生だけでなく、実践活動や現場から学ぶフィールドワークを重視する研究者や社会人にとっても多に参考となる。
4. 西井凉子編 (2014) 『人はみなフィールドワーカーである：人文学のフィールドワークのすすめ』(東京外国語大学出版会、ISBN-13 : 978-4904575383)
5. 椎野若菜・白石壮一郎編 (2014) 『フィールドに入る (100万人のフィールドワーカーシリーズ)』(古今書院、ISBN-13 : 978-4772271226 ; 刊行中)
 4. と5. は歴史・言語・人類学などの研究者が、様々な世界でのフィールド・ワークを語る入門書と、シリーズ (現在刊行中) です。

Ⅰ-2. データ分析、解釈などの参考に：社会調査と統計学を学ぼう

6. 谷岡一郎 (2000) 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』(文春新書、ISBN-13 : 978-4166601103)

筆者によれば、「社会調査」のかなりの部分は「ゴミ」です。これは日本では、社会調査に関する方法論をきちんと教えていないからです。筆者は、世間に流布している様々な「ゴミ」の見分け方を教えながら、皆さんがどうやったらゴミにならない調査をすることができるか、その方法論を教えてください。
7. 石井俊全 (2012) 『意味がわかる統計学』(ベレ出版、ISBN-13 : 978-4860643041)

文系・理系ともに、統計学は奥深い存在です。そんな統計学が使う推定・検定方法の背景にある原理を、図像を用いてわかりやすく説明します。また、相関係数や回帰直線の求め方も紹介します。

Ⅰ-3. プレゼンテーションの方法を学ぼう

8. 藤沢晃治 (2002) 『「分かりやすい説明」の技術：最強のプレゼンテーション 15 のルール』(講談社ブルーバックス、ISBN-13 : 978-4062573870)

今日では、他の人に自分の意図を正確に伝えるための技法が、勉強でも、仕事でも、また日常生活でも重要性を増しています。現場から生み出された、上手に説明するためのさまざまな法則を説明します。
9. 上田尚一 (2005) 『統計グラフのウラ・オモテ：初歩から学ぶ、グラフの「読み書き」』(講談社ブルーバックス、ISBN-13 : 978-4062574976)

データをグラフにする際、意外に注意が必要です。統計グラフは非常に便利ですが、反面、描き方や解釈によって、とんでもない結論になってしまいます。正しいグラフの作り方、そして読み方、解釈を豊富な具体例によって説明します。
10. G・レイノルズ (2011) 『シンプルプレゼン』(日経BP社、ISBN-13 : 978-4822230548)

企業人、教員、研究者に向けたプレゼンテーションの解説本。ゼミ等で参考になります。

I-4. 論文・レポートの書き方・まとめ方

11. 澤田昭夫 (1977) 『論文の書き方』(講談社学術文庫、ISBN-13 : 978-4061581531)
12. 木下是雄 (1981) 『理科系の作文技術』(中公新書 624、ISBN-13 : 978-4121006240)
13. 木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫、ISBN-13:978-4480081216)
とくに 11. と 12. はそれぞれ文系、理系の論文の指南法として、日本の古典とも言うべき 2 冊。
どちらか一方、もちろん、おすすめは両方、熟読されることをおすすめします。
14. 本多勝一 (2004) 『中学生からの作文技術』(朝日新聞社、ISBN-13 : 978-4022598622)
(例 1) 私は小林が中村が鈴木が死んだ現場にいたと証言したのかと思った。
(例 2) 鈴木が死んだ現場に中村がいたと小林が証言したのかと私は思った。
同じことを言っている、例 1 は読みにくく例 2 は読みやすい。なぜか? 理由を知りたい方はご一読を。
15. 小笠原喜康 (2009) 『新版・大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書、ISBN-13 : 978-4062880213)
16. 戸田山和久 (2012) 『新版・論文の教室ーレポートから卒論まで』(NHK ブックス、ISBN-13: 978-4140911945)
高校生にとってレポートとか論文の意味はよくわからないと思います。これらの本では、『基礎演習ハンドブック』より細かくレポート・論文について説明されています。読んでおけば、大学生活の意味も変わってくると思いますよ。

II. 先行スタディを学ぼう

II-1. 様々なフィールドワークを読んで、先行スタディを応用しよう

17. P E・ウィリス、(1996) 『ハマータウンの野郎ども』(熊沢誠他訳、ちくま学芸文庫、ISBN-13 : 978-4480082961)
本書のテーマは「イギリス新制中学に在籍する労働者階級の子弟たちが学校や制度に反抗しながら、結局、父親たちと同じく労働に順応していくのは何故か?」です。調査手法は、「統計学的な定量分析ではなく、被調査集団(イギリス人の中学生)に参入して行う定性的な記述方法、つまり、文化人類学的な生活誌の方法」をとり、「授業を含むあらゆる学校生活と放課後の気ままな活動には、筆者みずからその場に出向いて観察」したものです。インタビュー、そして聞き取り調査の御参考に。
18. O・ルイス (2003) 『貧困の文化ーメキシコの“五つの家族”』(高山智博他訳、ちくま学芸文庫、ISBN-13 : 978-4480087669)
1950 年代、人類学者オスカー・ルイスはメキシコを舞台に、都市の貧困層を研究して「貧困の文化」を提唱します。この概念はその後、多くの批判にさらされ、今も毀誉褒貶のまです。とは言え、彼が描き出すマルティネス、ゴメス、グティエレス、サンチェス、そしてカストロー家の暮らしぶりに、貧困とは何か? どうして子供たちは貧困のスパイラルから抜け出せないのか? 皆さんが考えるきっかけになるでしょう。
19. C・レヴィ=ストロース (2001) 『悲しき南回帰線』(室淳介訳、講談社学術文庫、ISBN-13:978-4061587113)
1934 年のパリのある日曜日、エコール・ノルマル(高等師範学校) 学長 S・ブーグレから突然「ブラジルでの民族学調査に参加しないか」と持ちかけられた人類学者レヴィ=ストロースは、勇んで現地に赴きます。しかし、そこで直面したのは、先住民に会いたければさらに南米大陸の奥深く、遙かな僻地“ロンドニア”に出かけねばならないという事実でした。
レヴィ=ストロースは荒野で、ナムピクワラの人たちについて書き記します。「生活の無一物状態はほとんど信じがたいほどだった。男女ともに一物も身にまとっていない」「夜明けとともに起きて、火をもやし、何はともあれ夜なかの寒さに冷えた体を暖め、それから前夜の残り物で軽く食事をする」「仕事といえばおしゃべりがおもで、いつでも陽気で、よく笑う。冗談をとばしたり、ときにはみだらな話や糞便の話をして、そんなときにはどっと笑いころげる」「(一日の終わりに) 明るく輝きはじめたなつかしい火のまわりに、家族の集まりができる。タベの集まりは、話や歌や踊りのうちにすぎっていく。ときには、これらの楽しみが夜遅くまでつづくことがあるが、たいいていはすこしばかり痴話げんかや友だち同士の争いがあったあとで、夫婦はしっかりと抱き合い、母親たちは眠っている子を抱きしめ、あたりは静寂に還り、寒い夜はタキギのはげる音と、タキギをくべる者の足音と、犬の吠え声、

子供の泣き声に、ときおり生気をとりもどすだけだ。

フランスから地球を半周ほど旅することになったフィールドワークは、10年の熟成の日々の後、構造主義人類学の幕開けとなる『親族の基本構造』として脱稿され、さらに6年の間をおいて畢生の傑作『悲しき南回帰線』に結実します。出版時、フランス最高の文学賞、ゴンクール賞委員会は、この書が“小説”の形で出版されなかったことに、遺憾の意を表したと聞いています。そのレヴィ＝ストロースは、18世紀の思想家J・J・ルソーこそ「自分以外の人間を知ることにより自分を知らうとした最初の人間である」＝人類学の始祖と称えています。つまり、人類学とは“自己”と“他者”を比べるうちに、“自己”を理解する業なのですが、これはもちろん『ノヴァギ』と同じ構図です。南海の島ティアヘアに住むとされる“酋長”ツイアビ（あるいは彼を創り出した筆者）は立派に人類学者なのです！

20. 西堀栄三郎 (2002) 『南極越冬記』 (岩波新書、ISBN-13 : 978-4004151029)

日本人が初めて南極で越冬する。その隊長として何を覚悟して、何を留意しなければならないか、そして酷寒の極地でどう振る舞うべきか？ 西堀栄三郎の究極のリーダーシップが展開します。ある日、「隊長が言う能率とは何ですか？」と部下に問い詰められて、平然と、能率とは「目的を果たしながら、もっとも要領よく手をぬくこと」だと言い放つ姿に、皆さんは仰ぐべきリーダー像を理解するでしょう。

21. 服部正也 (2009) 『ルワンダ中央銀行総裁日記』 (中公新書、ISBN-13 : 978-4121902900)

フィールド・ワークとは何か？ 1960年代、故服部正也氏は「アフリカの小さな国の中央銀行総裁を勤めないか」との突然のオファーに、予備知識もなく赴任します。そこでの孤軍奮闘、欧米銀行関係者が実状に無知なことに気づき、経済を動かすインド系商人と交渉し、民族対立も知る。幾多の困難を乗り越えた6年間を記した本書は優れたフィールド・ワークの記録です。国際に興味がある方は「戦に勝つのは兵の強さであり、戦に負けるのは将の弱さである」と結ぶ本書を是非お読み下さい。

II-2. インタビュー・聞き取り調査の実例：是非、お手本に

22. S・ターケル (1983) 『仕事（ワーキング）！』 (中山容訳、晶文社、ISBN-13:978-4794956613)

フィールド・スタディでのインタビューの比重が非常に大きくなると、「聞き取り調査／ヒアリング」、あるいは情報提供者（インフォーマント）の声がメインの独白体の「語り＝聞き書き」に移行します。この聞き書きのもっとも優れた例にアメリカのジャーナリストS・ターケルの『仕事！』があります。プロ野球選手から消防士まで、135人のアメリカ人が、自分がたずさわる115種の「仕事」を淡々と語る様子は圧倒されるばかりです。

23. 宮本常一 (1984) 『忘れられた日本人』 (岩波文庫、ISBN-13:978-4003316412)

民俗学者宮本常一がたんと聞き取りをおこなう日本人のみな。そこから浮かび上がる「忘れられてしまった世界」。聞き取りについての良きお手本であるとともに、かつての日本を知るのに好適です。

II-3. 途上国の先進国への隷属と格差：現実を知る、提案する

24. 鶴見良行 (1982) 『バナナと日本人』 (岩波新書、ISBN-13 : 978-4004201991)

最近、フェアトレードという言葉が流行っている。すなわち、農作物や工業製品を輸入する際に、現地の労働者の人権が守られているのか、現地の環境に考慮した栽培方法がとられているのか、このような要件を満たしたものを取引しようという考え方である。バナナもその対象の一つである。我々が食卓で、バナナを食べることの裏で、途上国で何が起きているのか。そして途上国の労働環境の改善や環境改善に我々には何ができるのか。このような問いを頭に持ちながら読んでほしい。20年以上前に書かれた書籍であるが、十分に現在でも通用する。国際貢献を目指す学生にはぜひ読んでいただきたい書籍の一つである。

25. 村井吉敬 (1988) 『エビと日本人』 (岩波新書、ISBN-13 : 978-4004300205)

バナナと同様に、日本人の食生活にかかせなくなったエビ。そのエビは、しかし、どこからやってくるのか？ インドネシアや台湾でのフィールドワークに基づいて、日本とアジアとの関係を探った話題作。

26. A・セン (2006) 『人間の安全保障』 (東郷えりか訳、集英社新書、ISBN-13 : 978-4087203288)

著者は1998年にノーベル経済学賞を受賞した経済学者であると同時に、ケンブリッジ大学時代には哲学教授も勤めた人物です。彼の関心は貧困や不平等にあり、効率性の話に偏りがちな経済学研究

に対して分配の公正について厳密な議論を展開しました。この『人間の安全保障』は8本の小論で構成されており、特に「人間の安全保障」という概念についてわかりやすい説明が施されます。特に国際政策学科への進学を目指す人には必読の書。

27. M・ユヌス (2008) 『**貧困のない世界を創る**』(猪熊弘子訳、早川書房、ISBN-13 : 978-4152089441)

本書は、グラミン銀行創設者であるユヌス氏が提唱する、ソーシャルビジネスの具体的な展開プロセスをまとめた実践の書であり、優れた啓蒙の書でもある。社会的便益を最大とする目標設定など、大変興味深く、新たなビジネスモデルとして学ぶべきところは多い。環境問題、IT 革命、グローバリゼーションなど世界の変革の中で、貧困の無い世界の実現に向けて挑戦し続ける著者から、読者は多くの知的刺激を受けるであろう。

28. E・ショイルマン (2009) 『**パパラギ：はじめて文明を見た南海の酋長ツィアビの演説集**』(岡崎照男訳、ソフトバンク文庫、ISBN-13 : 978-4797352399)

少し耳慣れない題名ですが、この本は太平洋の西サモア、ティアベアに住む“酋長” ツィアビがヨーロッパを回り、そこで出会った“パパラギ(=白人)”たちの生活、行動、社会等、文明社会に感じた思いを、帰島後、人々に訥々と語りかける演説集という想定で書かれた本です。実は、ツィアビは架空の人かもしれません。しかし、例えば、「(パパラギが) 物がたくさんなければ暮らしてゆけないのは(心が) 貧しいからだ」という指摘は、文明批評としての意味を持っています。すでにお気づきでしょうが、この物語は、白人たちが“未知の世界”に出かけて“未開人”と出会う、という筋書きの裏返しであり、“近代”への鋭い批評・異議申し立てなのです。

授業でも時折触れることがありますが、「アフリカの人たちは、ヨーロッパ人を“人喰い人種”だと思っていた」という話があります。“奴隷貿易”によって同胞が海の彼方に連れ去られ、しかも、誰も戻ってこない。ヨーロッパ人は何のために彼らを連れて行くのか? 「そうだ、彼らは人喰い人種に違いない!」とアフリカ人たちは考えます。

しかし、我々はいまだに“未開”の人々に接する際に、無意識のうちにも、欧米の“文明人”的視線そのままに彼らを見てしまいがちです。こうした“文明人の傲慢さ”は、すでに18世紀、フランスの啓蒙主義思想家D・ディドロが『フーガンヴィル航海記補遺』で、20世紀ではパレスチナ出身の歴史学者E・サイードが『オリエンタリズム』で批判しています。しかも、実を言えば、彼らも我々を見ている! 『パパラギ』こそ、“見られている者”が“見る者”を見返す際、そこに浮き上がった近代文明の光と影をあらわにする、そんな書物です。

29. 橋本強司 (2013) 『**開発援助と正義**』(幻冬舎ルネッサンス、ISBN-13 : 978-4779009396)

「国益むき出しの開発援助を正義と云いこめ、不正と不公平がまかり通る国際社会。真に日本らしい開発援助とは何か?」という問いに答えるため、「なぜ援助が必要なのか?」、「援助における正義とは何か?」、「正義を実現できる具体策は何か?」等の視点から、ダイヤモンド、カント、サンデル、セン等の著書と対話しつつ、長年開発コンサルタントとして活躍してきた経験と学際的知識を織り交ぜ、正義を語る援助哲学書。

II-4. フィールドワークから日本を見つめ直す：他者の視点で再考察

30. 松原岩五郎 (1988) 『**最暗黒の東京**』(岩波文庫、ISBN-13 : 978-4003317419)

御一新の興奮も収まらず、近代化の掛け声も勇ましくも、どこへ向かうのか、誰も教えてはくれぬ魔都東京に広がる“貧民窟”。自らも鳥取から上京したジャーナリスト松原岩五郎が、1892年、「日は暮れぬ、予が暗黒の世界に入るべく踏み出しの時刻は来たりぬ」と“突撃取材”を敢行した本書は、近代化の光(例えば、士官学校の給食)と陰(その残飯を貧民に売りつける残飯屋)の対比をあますことなく教えてくれます。

31. 柳田國男 (1993) 『**明治大正史世相篇**』(講談社学術文庫、ISBN-13 : 978-4061590823)

昭和5年、朝日新聞社が企画した明治大正史の一部、世相編として、民俗学の創始者、柳田國男が近過去の風俗をあつかった野心的作品です。そのため、いささかの毀誉褒貶があるようですが、名作『木綿以前のこと』とならんで、人々の暮らしのさりげない移り変わりが、しかし、我々の心情を否応なく変えてしまうなりゆきを淡々と記述しています。その散文詩のような筆遣いは、かつての新体詩人としての性(さか)をあらためて感じさせるかもしれません。

32. I・バード (1998) 『**朝鮮紀行～英国婦人の見た李朝末期**』(時岡敬子訳、講談社学術文庫、ISBN-13 : 978-4061593404)

33. I・バード (2008) 『**イザベラ・バードの日本紀行**』(時岡敬子訳、講談社学術文庫、ISBN-13 :

978-4061598713 等)

19世紀、イギリス女性の社会進出を象徴する一人、世界をまたにかけたトラベル・ライター、イザベラ・バードが描く明治11年の日本、そしてそのほぼ20年後、近代化に邁進する日本の影響力が次第に覆い尽くさんばかりになった日清戦争前後の朝鮮半島、イギリス人女性の筆によるこの二つの世界から、皆さんは何を読み取るでしょう？

Ⅲ. スタディに必要な教養を身に付けよう

Ⅲ-1. 国家、民族、文化、言語とは何か？：自らの常識を問い直そう

34. 田中克彦 (1981)『**ことばと国家**』(岩波新書、ISBN-13 : 978-4004201755)
あなたの「母国語」は何ですか？そして「母語」は何ですか？両方とも日本語と答えた人にとって、日本語は、太古の昔から自然に存在してきたものと感じられているかもしれませんが、しかし、音的なものの連なりが〇〇語と呼ばれるようになるまでには、必ず国家や政治の介入があります。本書は、言語が創られるプロセスを世界の実例から示すものであり、言語と国家権力の関係を考え始めたい人にとって絶好の入門書です。
35. EW・サイド (1993)『**オリエンタリズム**』(今沢紀子訳、平凡社、ISBN-13 : 978-4582760118 等)
ヨーロッパ世界からみたイスラーム世界の偏ったイメージがどのように形成されたか幅広い文化史の知識のもとについて明らかにした世界的名著。欧米社会に根深く存在する本質主義的文化観を批判する。今日のイスラームに対する欧米社会の偏見の源流を理解するためにも必読の書。
36. B・アンダーソン (2007)『**定本想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行**』(白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、ISBN-13 : 978-4904701089)
「国連」は、いうまでもなく“the United Nations”。では、「ネイション」とは何か？著者は「国民(ネイション)とはイメージとして心に描かれた想像の政治共同体である」と定義する。国民という概念は国家が創りだし、人々に押しつけたものではない。「たとえ現実には不平等と搾取があるにせよ、国民は、常に、水平的な深い同志愛として心に思い描かれ」、「数千、数百万の人々が、かくも限られた想像力の産物のために、殺し合い、あるいはむしろみずからすすんで死んでいった」。
推薦本は、この国民という概念が、いつ、どこで、どのようにして生まれたのか、を明らかにしたもの。どこで生まれたのか？「欧州」と答えた人は間違い。正解は読んでのお楽しみ。上質な推理小説を読んでいるかのような知的興奮。読後しばらくはアンダーソン・マジックの術中から逃れられない。

Ⅲ-2. 政治、経済、都市政策等を学んで、フィールドワークに活かす

37. 宇沢弘文 (1974)『**自動車の社会的費用**』(岩波新書、ISBN-13 : 978-4004110477)
著者は、大学で数学を研究していたが、日本の敗戦からの復興に貢献しようと経済学に転向した高名な経済学者。といっても推薦本に数式はいっさい出てこないで安心を。
自動車を使う人は車やガソリンにお金を使うが、実は自動車のコストはそれだけではない。大気汚染や騒音、事故による死傷の発生、そしてかつて子どもたちの遊び場であった空間が奪われていく。著者は、このようなコストに十分な注意が払われないのは、そもそも経済学の基本的な発想、理論構造に問題があるのではないのか、と提起する。
1974年に出版され、現在まで読み続けられているロングセラー。道路の構造は当時より格段に改善された。排気ガスもずいぶんきれいになった。しかし自動車利用に適合した都市構造は、かつての商店街をシャッター通りに変え、病症はさらに深く進行しているともいえる。なにより著者が当時問題とした経済学の考え方が、当時とは比べようもないほど今日の政策決定全般に大きな影響力を行使しているのである。
38. N・マキアヴェッリ (1998)『**君主論**』(河島英昭訳、岩波文庫、ISBN-13 : 978-4003400319)
政治現象を科学的に分析、あるいは、冷徹とも言える眼で観察した史上初の古典的な名著。そこで述べられている政体の類型論といい、君主と官吏(主権者而非委託者)の関係性といい、ひょっとしたら、かのマックス・ウェーバーの支配の類型や、近代官僚制論も、君主論がヒントになったと思われるフシがあり、そうした論点がこの本には散在している。ちなみに、「現代の君主」は、民主制下の市民であり、主権者であるあなたかもしれない。
39. 日端康雄 (2008)『**都市計画の世界史**』(講談社現代新書、ISBN-13 : 978-4062879323)

人類学がどのような歴史を経て現在の社会を築いてきたかを知することは、近視眼的で拙速な政策立案を防ぐために当然必要な知識、素養であろう。本書は都市計画の歴史を概説した入門書である。都市は人々の社会生活を支え保障する物理的環境であるが、一方で都市はそれぞれの時代の社会、制度、文化、経済、技術を目に見える形で空間化した時代の記憶装置でもある。さまざまな政策は都市という環境と不可分に結びついてきたし、これからもそうであろう。そのような意味で人類がきずきあげてきた都市の計画思想を知ることが、政策を議論する者にとっても大変重要な意味を持つのである。

40. M・フリードマン (2008) 『資本主義と自由』(村井章子訳、日経 BP クラシックス、ISBN-13 : 978-4822246419)

大学2年の時、当時、大学はまだ教養課程と専門課程に分かれていたのだが、専門課程で履修した最初の講義が「社会科学入門」。その講義を担当されていた、当時、大学院を出たばかりの血気盛んな先生が、(その先生は社会学が専門であるにも関わらず) 経済学の本を右寄り、真ん中、左寄りからということで3冊紹介してくれた。思想的にバランスをとることを意図されたようである。その右寄りとして紹介されたのがフリードマン『資本主義と自由』(当時、マグローヒル好学社) である。真ん中がサムエルソンの『経済学』(岩波書店)、左寄りがロビンソンの『現代経済学』(岩波書店) であった。

この中から私はまず、由緒ある教科書のサムエルソンの『経済学(第10版)』を読み始めた。教養課程でマルクス経済学に依拠した経済学概論の講義しか知らなかった私にとって、この本は経済学に目覚めるきっかけとなった。現実を理解する道具として、経済学が実に生き生きと感じられ、読み進むことに興奮した覚えがある。“収穫逓減の法則”という響きだけでも刺激的であったが、それ一つ説明するのに実に5ページも割くという、実に贅沢な教科書であった。

次いで手にしたのは『資本主義と自由』。この本には、頭をガソリンと殴られる思いがした。それまで、政府が社会を規制するのは当たり前と思っていたのだが、政府が政策をとることでもむしろ世の中が悪くなる可能性もあることを指摘し、医者でさえ国家試験は必要なく、市場の評価に任せてはどうかといった提案は、実に衝撃的であった。フリードマンには、その後、一般啓蒙書としてベストセラーにもなった『選択の自由』という同類の本もあるが(そちらでもよいと思うが)、私としては思い出深いこちらの本をお勧めしたい。

最後に、左寄りというロビンソンの『現代経済学』を読もうとしたが、こちらは数ページ進んで、あえなく挫折。もっと易しい本を紹介された『異端の経済学』に挑戦したが、こちらは一応最後まで読んだ痕跡はあるものの、内容は頭に残っていない。ということは、理解できなかったということであろう。現在この2冊を眺めてみると、ケインズ経済学をある程度理解した後で、その批判を含んだ研究書として読むべき本であることが分かる。

ということで、私も経済学の本から、右・真ん中・左と1冊ずつ紹介したかったのであるが、フリードマンの本は、初級者向けとして適当、また復刻版が出ているということで、推薦することにした。サムエルソンの教科書は上・下があり、私も読破するのに1年を要した大著である。ロビンソンは入門書として不適切ということで外した。ただ、フリードマンだけだとバランスに欠けるという思いもあり、ケインズ関係の本を1冊推薦している。そちらも参照されて、この2冊はセットで読まれることをお勧めしたい。

III-3. 歴史、自然科学を学んで、フィールドワークに活かす 他者を理解するためには、さらに教養を

41. EH・カー (1962) 『歴史とは何か』(清水幾太郎訳、岩波新書、ISBN-13 : 978-4004130017)

徳川家康でも豊臣秀吉でも、ナポレオン皇帝でもよい、歴史上の人物を考えてみよう。彼らについて書かれていることは、本当に事実なのか。いろいろ書かれていることの、どこに真実があるのか。そもそも「事実」とは何なのか……。こうした疑問に、筆者は丁寧に答えてくれる。筆者は歴史家だが、その指摘は、多くの学問分野に参考になりそうだ。難解なところもあるが、何度も読むうちに筆者の思いが伝わってくるであろう。本書はケンブリッジ大学での講演がもとになっている。その翻訳の素晴らしさも味わってもらいたい。

42. 本川達雄 (1992) 『ゾウの時間 ネズミの時間』(中公新書、ISBN-13:978-4121010872)

動物の身体の大きさと身体機能、寿命等を論じた1990年代のベストセラー。その後クローズアップされた環境問題にもつながって、生物学的な視点から人間を理解するために必読の書。

43. I・モンタネリ (1996) 『ローマの歴史』(藤沢道郎訳、中公文庫、ISBN-13 : 978-4122026018)

“まつりごと”に身をおくことに、人々はどのように喜びと怖れを感じるのか? 古代ローマ人にとって、政治(とその延長線上の戦い)はきわめて自然で、例えば朝食をとるように、ごく当然のこと

でした。先達としてのギリシア文明に惹かれつつも反発しながら、ローマ共和国／帝国は「普遍」と「現実」とを踏まえて、世界初の国際帝国を作りあげます。著者のモンタネッリは軽妙な語り口で、その栄枯盛衰を語ります。

事実かどうか定かならぬロムルスとレムスの双子の兄弟の神話から（ロムルスが「二人で決めたルールを破った」というしごくもっともな理由で、弟レムスを殺すのが紀元前753年4月21日）、西ローマ帝国最後の皇帝ロムルス・アウグストゥスが“蛮族”オドアケルに廃位される紀元476年まで、ローマという舞台に次々と千両役者たちが登場し、消えていきます。

例えば、先王を殺し、権力の座につきながら外征をやり過ぎて失脚するタルクィニウス驕慢王、ポエニ戦争でローマをああと一歩まで追い詰めながら、最後の詰めに誤る戦術の天才ハンニバル（そのため、部下に「あなたは勝利をつかむことはできる人だが、勝利を利用するすべを知らない」とののしられます）、墮落したローマ市民では戦にならないと判断し、「無産の民に目をつけ、高い給料、略奪の許可、土地の配分を餌に釣り寄せる」ことで傭兵体制をつくりあげる“決断と実行の人”マリウス、そのマリウス派を一掃して反動政治を断行する“幸運児”スラ、そして、事実上の帝政を打ち立てるユリウス・カエサル、こうした英雄たちが劇を盛り上げていきます（彼らは『プルターク英雄伝』の主要登場人物でもあります）。

そうかと思えば、皮肉屋のローマ皇帝ティベリウスは、元老院が（カエサルやアウグストゥスのように）「その名を一年のどれかの月の名称としたい」とおべっかを使うと、「そんなことをして、13代目の皇帝が即位するときにはどうするおつもりか？」とからかいます。

しかし、いつのまにかキリスト教が浸透し、皇帝の権威もやがて地に落ちて、中世がそこまでやってきている。ヨーロッパの政治と権力の源泉を知りたい方はぜひ、この本をお読みください。あわせて同じ著者のモンタネッリらの『ルネサンスの歴史』もお奨めです。そこでは『君主論』の著者N・マキャヴェリも登場します。

44. 塩野七生 (2009) 『海の都の物語：ヴェネツィア共和国の一千年（5巻）』（新潮文庫、ISBN-13：978-4101181325 等）

イタリアのヴェネツィアは、今日「水の都」として、あるいは、ルネサンス期に登場する都市国家としてのみ多くの日本人に理解されている。但し、実際にはローマ帝国滅亡後、一千年もの長きにわたって自由と独立を維持した長寿の国家であった。この小さな国が通商と巧みな外交、すなわち人材と智慧をフルに活用し海洋国家として経済的・文化的繁栄を続けた歴史は、今日の日本にとって大きな示唆を与えてくれる。読み物としても面白い。

45. 秋田茂 (2012) 『イギリス帝国の歴史』（中公新書、ISBN-13：978-4121021670）

好き嫌いはともかく、アメリカが世界のリーダーとして機能しているのが現在とするならば、かつてイギリスは、世界のリーダーとして、300年近く活動してきた。それは、現在の米国とは異なる世界経営のやり方であった。本書は、そのやり方について、アジアに焦点を当てながら、そのエッセンスを的確に論じた好著である。しかも学問的にも、次の段階に進みたい読者にとって、良き入門書となっている。

46. J・ダイヤモンド、R・ステフォフ (2015) 『若い読者のための第三のチンパンジー：人間という動物の進化と未来』（秋山勝訳、草思社、ISBN-13：978-4794221759）

『銃・病原菌・鉄』『文明崩壊』等の著作で有名になった生物学者のジャレド・ダイヤモンドの第1作『第三のチンパンジー』を最新情報でリニューアル。自然科学の世界から人間を考察するのにおすすめです。

『総合政策学部の100冊』、『新・総合政策学部の100冊』、
『基礎演習ハンドブック』、『先生のすすめる本シリーズ』等から